

専門	選択	創造システム工学セミナー専門	6025	学修単位	2	1	1					津村卓也, 谷正一	
専門	必修	特別研究IA	6201_a	学修単位	3	3						藤井知城, 兼城千波, 高良秀彦, 神里志穂子, 金城伊智子, 谷正一, 山田親稔, 宮城相桂, 川洋平, 亀濱博紀, 中平勝也	
専門	選択	特別研究IB	6201_b	学修単位	3			3				藤井知城, 兼城千波, 高良秀彦, 神里志穂子, 金城伊智子, 谷正一, 山田親稔, 宮城相桂, 川洋平, 亀濱博紀, 中平勝也	
専門	選択	シミュレーション工学	6204	学修単位	2			2				藤井 知	
専門	選択	数理計画法	6205	学修単位	2			2				神里 志穂子	
専門	選択	信号処理特論	6208	学修単位	2			2				中平 勝也	
専門	選択	マイクロ波工学	6210	学修単位	2	2						藤井 知	
専門	選択	システムLSI設計工学	6211	学修単位	2	2						山田 親稔	
専門	選択	光電子デバイス	6212	学修単位	2	2						高良 秀彦	
専門	選択	半導体物性工学	6213	学修単位	2			2				藤井 知	
専門	選択	LSIプロセス工学	6216	学修単位	2	2						兼城 千波	
専門	選択	航空工学I	8001	学修単位	2	2						高良 秀彦, 谷正一, 藤相川, 洋平	
専門	選択	航空工学II	8002	学修単位	2	2						眞喜志隆, 津村卓也, 政木清孝	
一般	必修	実用英語II	6002	学修単位	2				2			青木 久美, 飯島 淑江	
一般	選択	日本文化論	6003	学修単位	2				2			澤井 万七美	
一般	選択	哲学・倫理学	6004	学修単位	2						2	青木 久美	
一般	選択	応用解析学	6012	学修単位	2				2			安里 健太郎	
一般	選択	English Business Communication	6031	学修単位	2				2			カーマン, コイオカラニ	

[illegible]

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	琉球諸語入門	
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	8週目に「はじめての象棋―沖縄の伝統将棋―」（東洋企画）を使用。その他、プリントで補充する。						
担当教員	崎原 正志						
到達目標							
①Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。②しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。③しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。④しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。⑤しまくとうばで歌が歌える（1曲）。							
ルーブリック							
	達成度目標の評価方法		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベル（可）
Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。	全10回の小テスト（単語テスト）の実施		100語全てをしまくとうばで発音でき、その意味が言える。		70語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。		50語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。
しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。	第7週目の中間課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が10文以上用いて口頭でできる。授業で習った表現以外を用いることができる。		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が8～10文程度用いて口頭でできる。		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が5文程度用いて口頭でできる。
しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。	毎授業の最後に提出する課題の提出		しまくとうばの音をひらがな・カタカナ・漢字を交え、分かち書きし表記しつつ、漢字にルビを振ることができる。		しまくとうばの音をひらがなとカタカナを交え、分かち書きしつつ表記できる。		しまくとうばの音をひらがなで表記することができる。
しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。	毎授業の最後に提出する課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音でき、連体形も同様に運用できる。		名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音できる。		名詞述語・動詞述語文・形容詞述語文の違いを理解できる。
しまくとうばで歌が歌える（1曲）	第15週目の最終課題口頭発表の実施		既存のJ-Popソング1曲をしまくとうばに訳し、それをしまくとうばで歌える。		しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲を歌える。		しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲の一番（Aメロとサビ）を歌える。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、琉球列島で伝統的に話されて来た琉球諸語（しまくとうば、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の次に挙げる5点について学習する。						
授業の進め方・方法	①琉球「諸」語の数・種類・使用地域、②琉球諸語がどの程度危機的な状況にあるか、③個々の言語の下位方言の数・種類・使用地域、④伝統集落と屋取集落の違いとそれらの方言の差異、⑤上記の教科書を用いて、琉球諸語の内、沖縄島で話される沖縄語（うちなーぐち、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の語彙を学び、文にし、それらを読んだり、書いたり、話したりすることをアクティビティを通して学ぶ。 なお、授業に毎回参加し、アクティビティに積極的に参加して、課題をその都度提出することが、評価に直接つながるので、きちんと出席することが重要。						
注意点	『琉球語音声データベース』や『沖縄語辞典(1963)』にオンラインでアクセス可能なため、各自のノートPCを持参することが望ましい。また、評価の仕方は原則変更はないが、上記の目標・ルーブリックや授業概要、下記の授業計画は、授業の進行状況によって、内容を変更する場合がある。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	成績評価と授業の進め方について説明を行い、琉球諸語とは何か、本授業で扱う対象と内容について解説する。			語彙40語（Swadesh10語・カレンダー4月30語）を学習する。	
		2週	はじめまして。私は〇〇です。自己紹介、小テスト①40語（Swadesh10語・カレンダー4月30語）			自己紹介表現と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー5月31語）を学習する。	
		3週	元気か？・お元気ですか？（あいさつ）、小テスト②40語（Swadesh9語・カレンダー5月31語）			あいさつ表現と語彙39語（Swadesh9語・カレンダー6月30語）を学習する。	
		4週	あれは何ですか？（何？の文）、小テスト③39語（Swadesh9語・カレンダー6月30語）			ヌー（何）を使った疑問文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー7月31語）を学習する。	
		5週	出身はどこですか？（どこ？の文）、小テスト④40語（Swadesh9語・カレンダー7月31語）			マー（どこ）を使った疑問文の学習としまくとうばで手紙を書く。	
		6週	毎日、本を読む。（動詞述語文）、中間課題（しまくとうばレター）提出			動詞述語文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー8月31語）を学習する。最終課題作成の手順と説明。	
		7週	講義「うちなーぐち以外の琉球諸語と危機的状況について」、小テスト⑤40語（Swadesh9語・カレンダー8月31語）			うちなーぐち以外の琉球諸語と危機的状況について学習する。	
		8週	はじめてのチュンジー（沖縄の伝統将棋）			チュンジーの遊び方と基礎的語彙を学ぶ。	
	2ndQ	9週	早く読め！読みなさい！（命令形の文）、小テスト⑥約39語（Swadesh9語・チュンジー用語約30）			命令形の文と語彙39語（Swadesh9語・カレンダー9月30語）	
		10週	昨日、本を読んだ・読みよった・読んでいる（動詞の過去と継続）、小テスト⑦39語（Swadesh9語・カレンダー9月30語）			動詞の過去と継続と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー10月31語）を学習する。	
		11週	これ、おいしいね（形容詞の文）、小テスト⑧40語（Swadesh9語・カレンダー10月31語）			形容詞の文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー11月31語）を学習する。	

		12週	課題作成、小テスト⑨40語（Swadesh9語・カレンダー1月31語）	課題作成および語彙37語（Swadesh9語・カレンダー2月28語）を学習する。
		13週	課題作成、小テスト⑩37語（Swadesh9語・カレンダー2月28語）	課題作成
		14週	課題口頭発表練習日・予備日	最終課題「J-Popをしまくとうばで」の発表練習
		15週	課題口頭発表	最終課題「J-Popをしまくとうばで」をプレゼンする
		16週	課題提出	最終課題「J-Popをしまくとうばで」を仕上げて、提出

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	10	0	10	0	50	100
小テスト（語彙）	30	0	0	0	0	0	30
授業中課題	0	0	0	10	0	30	40
最終課題	0	10	0	0	0	20	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英詩研究
科目基礎情報						
科目番号	0026		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント配布					
担当教員	星野 恵里子					
到達目標						
詩作品に親しみ、参考文献を探し出し、自分なりの解釈や自分の言葉で日本語訳をすることができるようになる。さらには、作品の意図することを把握しながら、ふさわしい抑揚で朗読することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	作品が生まれた時代背景も考察しながら、作品を和訳するのみならず、自分の論理で解釈できる。その際、様々な参考文献を読み、自分の論理に合うように取捨選択できる。また、ブレイク自身の手による絵画と詩作品の関連性も考察できる。		作品が生まれた時代背景を考察しながら、作品を和訳できる。様々な参考文献を読むことが出来る。		作品が生まれた時代背景を説明できる。作品を和訳・解釈できる。	
評価項目2	作品の文脈を把握しながら、を自分の言葉で和訳でき、和訳したものが詩として読むに堪えるものである。さらには、自分なりの理論で作品を解釈できる。作品に合うように朗読できる。		既存の和訳を参考にしながら文脈を把握でき、自分の言葉に置き換えて和訳できる。既存の解釈を参考にしながら自分なりの解釈をしようと努力している。発音を間違えることなく朗読できる。		既存の和訳や解釈を参考にしながら、自分の言葉で和訳や解釈ができる。時折発音を間違えるが、朗読できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	グローバルに活躍するということは、外国語を流暢に話すことではなく、自国文化のみならず相手国文化への理解をもつことであると考えられる。英語に関しては、英語を母語としている国の文化への理解、ということになるが、その文化の一部を担うのが文学である。本講義では以下の3点を中心に扱う。①英国の画家で詩人であるWilliam Blake(1757-1827)の初期の作品を中心に和訳・解釈・朗読する。②ブレイク周辺の詩人の作品を和訳・解釈・朗読する。③サブカルチャーを含めた現代文化へのブレイクの影響を考察する。					
授業の進め方・方法	毎回扱う作品とレポーターを決め、レポーターが責任を持って以下の事を発表する。 ①作品の和訳 ②作品の解釈 ③作品の朗読					
注意点	参考資料等をきちんと提示し、自分のオリジナリティを出すようにする。 なお、授業の進行や授業内容は状況によっては変わることもある。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	扱う作品の提示とレポーターを決める		William Blakeの生涯を、生きた時代に合わせて把握できる。	
		2週	Introduction' 'Earth's Answer'		Introductionにまつわる周辺を理解できる。	
		3週	The Lamb' 'The Tyger'		二つの詩作品が象徴するものが理解できる。	
		4週	Infant Joy' 'Infant Sorrow'		幼子の持つ対照的な感情の原因が理解できる。	
		5週	二つの'Nurse' Song'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		6週	二つの'Holy Thursday'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		7週	二つの'The Chimney Sweeper'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		8週	植物にまつわる詩 'The Blossom' 'The Sick Rose'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
	4thQ	9週	植物にまつわる詩 'The Poison Tree' 'My Pretty Rose-Tree'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
		10週	The Marriage of Heaven and Hell		本作品の特徴的な部分を抽出し、その特異な表現やそれが象徴するものを理解できる。	
		11週	英国・アイルランドのロマン派詩人について		ロマン派とは何か、どのような詩人がいるか理解できる。	
		12週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーとは何か、理解できる。	
		13週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーにブレイクのどの部分が扱われているか指摘できる。	
		14週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーで扱われているブレイクに共通する事物を理解することができる。	
		15週	現代を生きるブレイク		現代人にいかにブレイクが影響を与えたか考察・理解できる。	
		16週				
評価割合						
	レポート		口頭発表（相互評価を含む）		合計	
総合評価割合	60		40		100	

基礎的能力	20	20	40
専門的能力	20	20	40
主体的・継続的学修意欲	20	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	実用英語I
科目基礎情報						
科目番号	6001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・ Practical Grammar for the TOEIC Test (南雲堂) ・ 「速読英単語」必修編 (Z会出版)					
担当教員	星野 恵里子,カーマンマコア クイオカラニ					
到達目標						
This course is designed for students who have basic English skills to improve their practical English skills. The course also aims to help students prepare for TOEIC IP test. 【III-B】						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Students should acquire basic vocabulary.	Showing almost perfect understanding of vocabulary and scoring more than 90% in the quiz.		Showing good understanding of vocabulary and scoring more than 75% in the quiz.		Showing good understanding of vocabulary and scoring more than 60% in the quiz.	
Students should develop listening and reading skills.	Scoring more than 90% in the exam and TOEIC.		Scoring more than 75% in the exam and TOEIC.		Scoring more than 60% in the exam and TOEIC.	
Students should be able to express themselves orally and through written medium in English.	Displaying fluent and accurate use of English with good grammar and vocabulary and scoring more than 90% in the exam.		Displaying fluent and accurate use of English with a few errors and scoring more than 70% in the exam.		Displaying fluent and accurate use of English despite errors and scoring more than 60% in the exam.	
Students can understand technical texts/documents in addition to general ones.	Read more than 5000 words in a week. Can understand the content about 90%.		Read more than 5000 words in a week. Can understand the content about 75%.		Read more than 5000 words in a week. Can understand the content about 60%.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This course is designed for students who have basic English skills to improve their practical English skills. The course also aims to help students prepare for TOEIC IP test. 【III-B】 【複数教員担当方式】					
授業の進め方・方法	・ The course is conducted in English. ・ The course book used in lectures focuses on grammar and vocabulary acquisition. Students are required to answer the questions in advance of lecture and revise it after lecture. ・ Vocabulary quiz is administered in every lecture. Students are required to prepare for one. ・ In order to build reading and listening skills, students are required to read/listen more than 5000 words in a week and keep reading and listening log. ・ Based on what they have learned through the course, students are expected to score about 475 for TOEIC IP test, which is administered in the course.					
注意点	If students had the test in other test centers and scored higher than they did in the test held in the course, they can claim to use the score for the evaluation if they submit the score report by the due date.					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Orientation/ TOEIC 1	授業の説明 Unit 1 品詞の種類		
		2週	TOEIC 2	Quiz #1: 31, 32 Unit 2 動詞(1) Unit 3 動詞(2)		
		3週	TOEIC 3	Quiz #2: 33, 34 Unit 4 助動詞 Unit 5 不定詞と動名詞		
		4週	TOEIC 4	Quiz #3: 35, 36 Unit 6 分詞 Unit 7 形容詞と副詞		
		5週	TOEIC 5	Quiz #4: 37, 38 Unit 8 前置詞 Unit 9 接続詞		
		6週	TOEIC 6	Quiz #5: 39, 40 Unit 10 名詞 Unit 11 代名詞		
		7週	TOEIC 7	Quiz #6: 41, 42 Unit 12 比較 Unit 13 関係詞		
		8週	Speaking 1	Quiz #7: 43, 44 Topic 1		
	2ndQ	9週	Speaking 2	Quiz #8: 45, 46 Topic 2		
		10週	Speaking 3	Quiz #9: 47, 48 Topic 3		
		11週	Speaking 4	Quiz #10: 49, 50 Topic 4		

		12週	Speaking 5	Quiz #11: 51, 52 Topic 5
		13週	TOEIC IP test	TOEIC IP test
		14週	Speaking 6	Oral exam #1
		15週	Speaking 7	Oral exam #2
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	5	0	0	0	35	100
基礎的能力	30	5	0	0	0	0	35
専門的能力	10	0	0	0	0	30	40
分野横断的能力	20	0	0	0	0	5	25

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日琉交流史
科目基礎情報						
科目番号	6005		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	下郡 剛					
到達目標						
沖縄地域社会の理解を目的とし、日本本土との人の中での移動に伴って生じる、文化・歴史の関係性についての認識を深める。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
		琉球仏教に関するフィールドワークを通して、自分なりの視点で、琉球仏教の歴史と現状をまとめることができる。		現在における沖縄文化と沖縄仏教との関係性を総合的に理解できる。		日本仏教の宗派別異差違と琉球仏教との関係を理解できる。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高めるとともに、リアリティーある時代像の構築に努める。					
授業の進め方・方法	フィールドワークの手法を取り入れることで、特に沖縄北部地域が日本本土との交流に果たした役割をリアルに認識できるよう努める。					
注意点	フィールドワークを行う必要上、受講者の人数制限を行う。人数は公用車で引率できる学生数とする。					
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス		授業内容とその進め方等を説明する	
		2週	平安・鎌倉時代の日本仏教		琉球における仏教文化の母体となった、日本仏教について、基礎的知識を得る。対象とする時代は、琉球仏教の2大宗派となる真言宗と臨済宗を中心とし、両宗派が成立する平安時代と鎌倉時代とする。	
		3週	琉球への仏教の伝来		近世期の琉球仏教の概要を知るとともに、それが日本から伝来してくることについて学ぶ。	
		4週	琉球仏教の展開		日本から伝来した仏教が、古琉球期に、いかに琉球社会に定着してゆくのかを、特に禅宗を中心に学ぶとともに、日琉交流における僧侶の役割を知る。	
		5週	僧侶を介した日本と琉球の文化交流		日琉禅僧の媒介としての堺商人を取り上げ、禅僧と堺商人との交流ツールとしての茶文化に注目する。その上で、茶文化が日本から琉球に伝来してゆくこと、これが琉球社会の中で独自の展開を見せることについて知る。	
		6週	補陀落渡海と日秀		琉球への仏教の伝来と定着の上で、大きな役割を果たした日秀について知ること、琉球社会と真言宗について学ぶ。さらに、その拠点となった金武観音寺と観音信仰・補陀落渡海について学ぶ。	
		7週	沖宮天燈山の石碑		科目担当教員自身が代表者となった科研費研究で発見・発掘調査した沖宮天燈山の石碑を通して、仏教を介した日本と琉球の文化交流の一端を学ぶ。	
		8週	桃林寺と円覚寺の三牌		科目担当教員自身が代表者となった科研費研究で発見・調査した桃林寺の三牌を通して、仏教を介した日本と琉球の文化交流の一端を学ぶ。	
	4thQ	9週	フィールドワーク1－漂到流求国記		琉球大学図書館が所蔵する漂到流求国記コロタイプ複製本を使用して、古文書の調査を実施し、料紙の継ぎ目、文字の書き直し、虫食いの状態などを実際に見、触ることで、文化遺産を身近に感じ、体感できる機会を作る。	
		10週	フィールドワーク1－漂到流求国記		上記調査について、漂到流求国記コロタイプ複製本は琉球大学図書館において貴重書扱いとされており、琉球大学図書館の指定閲覧室で調査する必要がある。そのため、琉球大学への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とし、琉球大学に移動した上で調査を行う。	
		11週	フィールドワーク2－金武観音寺		「補陀落渡海と日秀」での授業で得た知識をもとに、本島内で唯一沖縄戦の戦禍を免れた寺院でもある金武観音寺に実際に赴いて、現地を視察する。そのことを通して、沖縄高専所在地の本島北部地区にある文化遺産を身近に感じ、体感できる機会を作る。	
		12週	フィールドワーク2－金武観音寺		上記調査について、観音寺への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。	
		13週	フィールドワーク3－円覚寺跡		日琉文化交流上大きな役割を果たした琉球臨済宗において、近世期第一位の寺格を誇った円覚寺跡に赴いて、現地を視察する。そのことで、首里城との近接性を体感し、外交上での臨済宗の意義についての認識を深める。	
		14週	フィールドワーク3－円覚寺跡		上記調査について、円覚寺跡への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。	

		15週	その後の日秀		補陀落信仰に基づき、琉球に渡海した日秀は、その後、琉球を離れ、再度日本に戻る。彼が琉球を離れた後、布教活動を行った鹿児島での行動を追い、現地写真を見ることで、論点を廃仏毀釈にまでつなげ、金武観音寺で見た沖縄における神仏習合の残存状況と対比する。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
基礎的能力	90	10	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	物理学特論	
科目基礎情報							
科目番号	6010		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	森田 正亮						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	数学通論
科目基礎情報						
科目番号	6011		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	それぞれの担当者が適宜授業時に示す。					
担当教員	成田 誠,吉居 啓輔,緒方 勇太					
到達目標						
それぞれの担当者が 適宜授業時に示す。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
波動方程式の解 1 法を理解する。	フーリエ解析を 理解し、1次元 波動方程式の初 期値境界値問題 を解くことが できる。また、解の一意性を示す ことが できる。		フーリエ級数を 理解し、1次元 波動方程式の初 期値境界値問題 を解くことが できる。		1次元波動方程式を解くことができる。また、初期値問題の公式(ダランベールの公式)を導くことができる。	
数学における論理ハースルは多くの実用的な応用性を内包する。実際の問3題をもとに、それらの応用がいかに生まれたかを考察する。	論理ハースルの工学への応用について幾つかの事例を理解し、そのうちの主要な問題を解くことができる。		論理ハースルのどのような数学的な性質が、工学へ応用されているのかを理解し、幾つかの発展的な問題を解くことができる。		論理ハースルのどのような数学的な性質が、工学へ応用されているのかを理解し、幾つかの発展的な問題を解くことができる。また、問題を自分で作製することができる。	
曲線の基礎理論を学ぶ。	平面曲線や空間曲線の理解に加え、曲率が定義できない特異点などの発展的な話題に挑戦し、種々の計算をすることができる。		平面曲線に加え、空間曲線の曲率や振率の定義を理解し、それらの計算をすることができる。		平面曲線の曲率の定義を理解し、曲率の計算をすることができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	波動方程式の解法、数学基礎論とハースル算術、曲線の基礎理論について講義する。 【オムニバス方式】 第1回～5回を成田誠教授が担当、第6回～10回を吉居啓輔講師が担当、第11回～15回を緒方勇太講師が担当する。					
授業の進め方・方法	授業は3人の教員がそれぞれ5回の講義を担当する。 各担当者が、波動方程式の解法(成田誠)、数学基礎論とハースル算術(吉居啓輔)、曲線の基礎理論(緒方勇太)について講義する。 それぞれの担当者の講義内容は、基本的には独立している。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	波動方程式の導出		数理モデルとして弦の振動や電磁波を表す方程式(波動方程式)を導出する。	
		2週	波動方程式の解法(1)		波動方程式の解法(進行波による表現)を学ぶ。	
		3週	波動方程式の解法(2)		フーリエ級数による波動方程式の解法を学ぶ。2 フーリエ変換による波動方程式の解法を学ぶ。 2 逐次近似法による波動方程式の解法を学ぶ。2 複素数の基本性質について学ぶ。 2 初等的な複素関数について学ぶ。2 複素関数の微分について学ぶ。 2 複素関数の積分について学ぶ。 2 複素関数の積分について学ぶ。 フーリエ級数による波動方程式の解法を学ぶ。	
		4週	波動方程式の解法(3)		フーリエ変換による波動方程式の解法を学ぶ。	
		5週	波動方程式の解法(4)		逐次近似法による波動方程式の解法を学ぶ。	
		6週	論理ハースル(1)		解けるハースルと解けないハースルについて概要を掴む。	
		7週	論理ハースル(2)		基本的な問題をもとに、演習する。	
		8週	論理ハースル(3)		やや難易度の高い問題に挑戦する。	
	2ndQ	9週	論理ハースル(4)		演習	
		10週	論理ハースル(5)		解けない問題と数学基礎論との関わりについて学ぶ。	
		11週	平面曲線(1)		直線や円、2次曲線のパラメータ表示の復習。平面曲線論の導入を行う。	
		12週	平面曲線(2)		平面曲線の曲率の定義を学び、曲率計算を行う。	
		13週	空間曲線		空間曲線の曲率や振率の定義を学び、曲率計算や振率計算を行う。	
		14週	曲線と特異点		曲線上の特異点の定義を学び、特異点に関する計算を行う。	
		15週	曲線論のまとめ		まとめ、演習	
		16週				
評価割合						
	波動方程式の解法		複素数の関数の微積分		数学基礎論とハースル算術	合計
総合評価割合	33		33		34	100

基礎的能力	33	33	34	100
專門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用物理特論	
科目基礎情報							
科目番号	6013		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	宮田 恵守						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地球科学特論	
科目基礎情報							
科目番号	6028		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	木村 和雄						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	琉球諸語入門	
科目基礎情報							
科目番号	6029		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	8週目に「はじめての象棋―沖縄の伝統将棋―」（東洋企画）を使用。その他、プリントで補充する。						
担当教員	崎原 正志						
到達目標							
①Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。②しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。③しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。④しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。⑤しまくとうばで歌が歌える（1曲）。							
ルーブリック							
	達成度目標の評価方法		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限必要な到達レベル（可）		
Swadeshの基礎語彙100語をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。	全10回の小テスト（単語テスト）の実施		100語全てをしまくとうばで発音でき、その意味が言える。	70語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。	50語以上をしまくとうばで発音でき、その意味が言える。		
しまくとうばで簡単な自己紹介（8～10文）が口頭でできる。	第7週目の中間課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が10文以上用いて口頭でできる。授業で習った表現以外を用いることができる。	授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が8～10文程度用いて口頭でできる。	授業で習った表現を土台にし、しまくとうばでの自己紹介が5文程度用いて口頭でできる。		
しまくとうばの音を文字（ひらがな・カタカナ・漢字）で表記することができる。	毎授業の最後に提出する課題の提出		しまくとうばの音をひらがな・カタカナ・漢字を交え、分かち書きし表記しつつ、漢字にルビを振ることができる。	しまくとうばの音をひらがなとカタカナを交え、分かち書きしつつ表記できる。	しまくとうばの音をひらがなで表記することができる。		
しまくとうばの名詞述語・動詞述語・形容詞述語文について理解し、作文し、口頭で発音できる。	毎授業の最後に提出する課題の提出および第15週目の最終課題口頭発表の実施		名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音でき、連体形も同様に運用できる。	名詞述語・動詞述語・形容詞述語文全てを理解し、作文でき、発音できる。	名詞述語・動詞述語文・形容詞述語文の違いを理解できる。		
しまくとうばで歌が歌える（1曲）	第15週目の最終課題口頭発表の実施		既存のJ-Popソング1曲をしまくとうばに訳し、それをしまくとうばで歌える。	しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲を歌える。	しまくとうばに訳された既存のJ-Popソング1曲の一番（Aメロとサビ）を歌える。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業では、琉球列島で伝統的に話されて来た琉球諸語（しまくとうば、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の次に挙げる5点について学習する。						
授業の進め方・方法	①琉球「諸」語の数・種類・使用地域、②琉球諸語がどの程度危機的な状況にあるか、③個々の言語の下位方言の数・種類・使用地域、④伝統集落と屋取集落の違いとそれらの方言の差異、⑤琉球諸語の内、沖縄島で話される沖縄語（うちなーぐち、とも言う。場面に応じて、両方を使用）の語彙を学び、文にし、それらを読んだり、書いたり、話したりすることをアクティビティを通して学ぶ。 なお、授業に毎回参加し、アクティビティに積極的に参加して、課題をその都度提出することが、評価に直接つながるので、きちんと出席することが重要。						
注意点	『琉球語音声データベース』や『沖縄語辞典(1963)』にオンラインでアクセス可能なため、各自のノートPCを持参することが望ましい。また、評価の仕方は原則変更はないが、上記の目標・ルーブリックや授業概要、下記の授業計画は、授業の進行状況によって、内容を変更する場合がある。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	成績評価と授業の進め方について説明を行い、琉球諸語とは何か、本授業で扱う対象と内容について解説する。	語彙40語（Swadesh10語・カレンダー 4月30語）を学習する。			
		2週	はじめまして。私は〇〇です。自己紹介、小テスト①40語（Swadesh10語・カレンダー 4月30語）	自己紹介表現と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー 5月31語）を学習する。			
		3週	元気か？・お元気ですか？（あいさつ）、小テスト②40語（Swadesh9語・カレンダー 5月31語）	あいさつ表現と語彙39語（Swadesh9語・カレンダー 6月30語）を学習する。			
		4週	あれは何ですか？（何？の文）、小テスト③39語（Swadesh9語・カレンダー 6月30語）	ヌー（何）を使った疑問文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー 7月31語）を学習する。			
		5週	出身はどこですか？（どこ？の文）、小テスト④40語（Swadesh9語・カレンダー 7月31語）	マー（どこ）を使った疑問文の学習としまくとうばで手紙を書く。			
		6週	毎日、本を読む。（動詞述語文）、中間課題（しまくとうばレター）提出	動詞述語文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー 8月31語）を学習する。最終課題作成の手順と説明。			
		7週	講義「うちなーぐち以外の琉球諸語と危機的状況について」、小テスト⑤40語（Swadesh9語・カレンダー 8月31語）	うちなーぐち以外の琉球諸語と危機的状況について学習する。			
		8週	はじめてのチュンジー（沖縄の伝統将棋）	チュンジーの遊び方と基礎的語彙を学ぶ。			
	2ndQ	9週	早く読め！読みなさい！（命令形の文）、小テスト⑥約39語（Swadesh9語・チュンジー用語約30）	命令形の文と語彙39語（Swadesh9語・カレンダー 9月30語）			
		10週	昨日、本を読んだ・読みよった・読んでいる（動詞の過去と継続）、小テスト⑦39語（Swadesh9語・カレンダー 9月30語）	動詞の過去と継続と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー 10月31語）を学習する。			
		11週	これ、おいしいね（形容詞の文）、小テスト⑧40語（Swadesh9語・カレンダー 10月31語）	形容詞の文と語彙40語（Swadesh9語・カレンダー 11月31語）を学習する。			

		12週	課題作成、小テスト⑨40語（Swadesh9語・カレンダー1月31語）	課題作成および語彙37語（Swadesh9語・カレンダー2月28語）を学習する。
		13週	課題作成、小テスト⑩37語（Swadesh9語・カレンダー2月28語）	課題作成
		14週	課題口頭発表練習日・予備日	最終課題「J-Popをしまくとうばで」の発表練習
		15週	課題口頭発表	最終課題「J-Popをしまくとうばで」をプレゼンする
		16週	課題提出	最終課題「J-Popをしまくとうばで」を仕上げて、提出

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	10	0	10	0	50	100
小テスト（語彙）	30	0	0	0	0	0	30
授業中課題	0	0	0	10	0	30	40
最終課題	0	10	0	0	0	20	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英詩研究
科目基礎情報						
科目番号	6030		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	プリント配布					
担当教員	星野 恵里子					
到達目標						
詩作品に親しみ、参考文献を探し出し、自分なりの解釈や自分の言葉で日本語訳をすることができるようになる。さらには、作品の意図することを把握しながら、ふさわしい抑揚で朗読することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	作品が生まれた時代背景も考察しながら、作品を和訳するのみならず、自分の論理で解釈できる。その際、様々な参考文献を読み、自分の論理に合うように取捨選択できる。また、ブレイク自身の手による絵画と詩作品の関連性も考察できる。		作品が生まれた時代背景を考察しながら、作品を和訳できる。様々な参考文献を読むことが出来る。		作品が生まれた時代背景を説明できる。作品を和訳・解釈できる。	
評価項目2	作品の文脈を把握しながら、を自分の言葉で和訳でき、和訳したものが詩として読むに堪えるものである。さらには、自分なりの理論で作品を解釈できる。作品に合うように朗読できる。		既存の和訳を参考にしながら文脈を把握でき、自分の言葉に置き換えて和訳できる。既存の解釈を参考にしながら自分なりの解釈をしようと努力している。発音を間違えることなく朗読できる。		既存の和訳や解釈を参考にしながら、自分の言葉で和訳や解釈ができる。時折発音を間違えるが、朗読できる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	グローバルに活躍するということは、外国語を流暢に話すことではなく、自国文化のみならず相手国文化への理解をもつことであると考えられる。英語に関しては、英語を母語としている国の文化への理解、ということになるが、その文化の一部を担うのが文学である。本講義では以下の3点を中心に扱う。①英国の画家で詩人であるWilliam Blake(1757-1827)の初期の作品を中心に和訳・解釈・朗読する。②ブレイク周辺の詩人の作品を和訳・解釈・朗読する。③サブカルチャーを含めた現代文化へのブレイクの影響を考察する。					
授業の進め方・方法	毎回扱う作品とレポーターを決め、レポーターが責任を持って以下の事を発表する。 ①作品の和訳 ②作品の解釈 ③作品の朗読					
注意点	参考資料等をきちんと提示し、自分のオリジナリティを出すようにする。 なお、授業の進行や授業内容は状況によっては変わることもある。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	扱う作品の提示とレポーターを決める		William Blakeの生涯を、生きた時代に合わせて把握できる。	
		2週	Introduction' 'Earth's Answer'		Introductionにまつわる周辺を理解できる。	
		3週	The Lamb' 'The Tyger'		二つの詩作品が象徴するものが理解できる。	
		4週	Infant Joy' 'Infant Sorrow'		幼子の持つ対照的な感情の原因が理解できる。	
		5週	二つの'Nurse' Song'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		6週	二つの'Holy Thursday'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		7週	二つの'The Chimney Sweeper'		同タイトルを持つ二つの詩作品の違いとその理由を理解できる。	
		8週	植物にまつわる詩 'The Blossom' 'The Sick Rose'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
	4thQ	9週	植物にまつわる詩 'The Poison Tree' 'My Pretty Rose-Tree'		詩作品で表現されている植物が象徴する事物を理解できる。	
		10週	The Marriage of Heaven and Hell		本作品の特徴的な部分を抽出し、その特異な表現やそれが象徴するものを理解できる。	
		11週	英国・アイルランドのロマン派詩人について		ロマン派とは何か、どのような詩人がいるか理解できる。	
		12週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーとは何か、理解できる。	
		13週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーにブレイクのどの部分が扱われているか指摘できる。	
		14週	ブレイクをモチーフとしたサブカルチャー紹介		サブカルチャーで扱われているブレイクに共通する事物を理解することができる。	
		15週	現代を生きるブレイク		現代人にいかにブレイクが影響を与えたか考察・理解できる。	
		16週				
評価割合						
	レポート		口頭発表（相互評価を含む）		合計	
総合評価割合	60		40		100	

基礎的能力	20	20	40
専門的能力	20	20	40
主体的・継続的学修意欲	20	0	20

沖縄工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造システム工学実験
科目基礎情報				
科目番号	6009	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年	専1	
開設期	前期	週時間数	4	
教科書/教材	図書などで収集した資料、学生作成の資料			
担当教員	兼城 千波,谷藤 正一			

到達目標

設定した課題解決のために、適切に実験計画を立て、それを遂行する。それを実現するために以下を科目目標とする。
 ①汎用的技能として、A.コミュニケーションスキル、B.合意形成、C情報収集・活用・発信力、D.課題発見、E.論理的思考力を身につける。
 ②グループワークに必要な行動要素（A.主体性、B.自己管理能力、C.責任感、D.チームワーク力、E.リーダーシップ、F.倫理観（独創性の尊重、公共心））を身につける。
 ③総合的な学習経験を通して、創造的思考力（A.創造能力、B.エンジニアリングデザイン能力）を身につける。
 ④工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベル（優）	標準的な到達レベル（良）	最低限必要な到達レベル（可）
①汎用的技能として、A.コミュニケーションスキル、B.合意形成、C情報収集・活用・発信力、D.課題発見、E.論理的思考力を身につける。	・口頭のみ、あるいは板書を併用して聞き手の理解を得ることができる ・他者の考えや意見を把握し、意見を述べることができる ・単独で、グループ内の意見をまとめ、グループ全体の理解を得、さらに合意点を設定することができる ・必要な情報を十分かつ正確に収集でき、プレゼンの際に適切に活用できる ・授業を進めながら、授業に重要な点や不足部分をグループで確認・解決し、授業の内容や進度を調整できる ・他学生からの質問等に対して、単独で、わかりやすく回答することができる	・適切な資料を用いて聞き手の理解を得ることができる ・他者の考えや意見を把握することができる ・他者と協力して、グループ内の意見をまとめ、グループ全体の理解を得ることができる ・必要な情報を収集でき、プレゼンの資料に適切まとめられている ・授業の中で気が付いたことを、グループ内で提案し、次回に活かすことができる ・他学生からの質問等に対して、他者の協力を得ながら、理解を得られる回答ができる	・他者の協力を得ることで、聞き手の理解を得ることができる ・協力を得ることで、他者の考えや意見を把握することができる ・グループ内の意見のまとめ方、得られた理解が不十分である ・情報が収集できており、プレゼン資料にある程度まとめられている ・個人で授業に関する問題のいくつかに気づき、修正を試みることができる ・他学生からの質問等に対して、時間はかかるが、最終的に、理解を得られる回答ができる
②グループワークに必要な行動要素（A.主体性、B.自己管理能力、C.責任感、D.チームワーク力、E.リーダーシップ、F.倫理観（独創性の尊重、公共心））を身につける。	・極めて自主的に、自身のやるべきことに取り組むことができる ・授業を行うという責務を果たし、授業中は、十分に教室全体に気を配ることができる ・授業を行うという責務を果たし、授業中は、十分に教室全体に気を配ることができる ・自身の役割を、他者の役割と関連付けながら遂行することができる ・常にグループ全体に気を配り、極めて自発的にグループをまとめることができる ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等を正しく明記し、自身の意見や発見と他者のそれを明確に表現することができる	・時々指導をうけることもあるが、基本的には自身のやるべきことに、自主的に取り組むことができる ・授業を行うことの責務を理解しており、教室内への気配りもできている ・授業を行うことの責務を理解しており、教室内への気配りもできている ・自身の役割を遂行しながら、他者の進捗状況に合わせて協力することができる ・他者の協力を得ることで、全体をまとめることができる ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等を明記し、引用箇所を明示することができる	・指導を受けることによって、自身のやるべきことに取り組むことができる ・授業への貢献度が低く、受講生と同じ目線で授業に参加している ・授業を進めるにあたってグループに対して連絡・相談の重要性は意識できておらず、授業への貢献度が低く、受講生と同じ目線で授業に参加している ・自身の役割のみに集中する ・全体をまとめることができず、他者への依存度が高い ・講義資料を作成する際に用いた参考文献等が明記されておらず、自身の意見と他者の意見の表現の区別が明確でない
③総合的な学習経験を通して、創造的思考力（A.創造能力、B.エンジニアリングデザイン能力）を身につける。	・作成した資料や教材に、これまでの知識が十分に活かされており、そこから新たな知見を得ることができる ・教育目標を達成するまでの流れがスムーズで、学ぶべきことが最適に配置された授業を計画、遂行することができる	・作成した資料や教材に、これまでの知識の多くが活かされている ・達成すべき目標と講義内容が関連付けられた授業を計画することができる	・指導を受けることによって、これまでの知識を資料や教材に活かすことができる ・教育目標が不明瞭で、講義内容とのリンクが不十分である
④工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法を身につける。	授業を通して、工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題発見・解決方法が理解できる	資料を使って、工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題・解決方法を説明できる	工学関連分野（機械・電気電子・情報・生物）の問題と方法の区別をつけることができる

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・情報収集と課題発見、実験計画、進捗状況 50% ・グループワーク 30% ・創造性、プレゼンテーション、レポート 20% 【複数教員担当方式】
授業の進め方・方法	・興味のあるテーマに対し、実社会における情報収集を行い、その課題・問題点を抽出する。 ・全コース混合で数チームを編成し、考えられる課題をグループで集約し、その課題解決のために、必要な要素（技術・知識）を出し合い、学生が自主的に課題解決に向けた実験計画を行い、その実践に取組む。 ・学生がこれまで習得してきた知識・技術を基に、チーム内で協力し合い、エンジニアリングデザイン能力を発揮し、創造的に製品化に向けた取組を行う ・7週目に、チーム間で設計コンペティションを行い、選ばれた設計につき、後半、チーム別で製品化に取組む。 ・最終週は各チームによるコンペティションを実施する。
注意点	この科目の主たる関連科目は本科専門科目全てである。
授業計画	
	週 授業内容 週ごとの到達目標

前期	1stQ	1週	オリエンテーション	科目の概要説明、グループ編成と実験計画
		2週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習
		3週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		4週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		5週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		6週	課題に適合した製品設計	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善
		7週	設計コンペティション	チーム間で設計コンペティションを行う
		8週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
	2ndQ	9週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		10週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		11週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		12週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		13週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		14週	課題に適合した製品製造	課題抽出と問題解決に向けた実験・実習と改善、創作物製作
		15週	製品発表	チーム別に製品を発表する
		16週	期末試験は実施しない	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的理解	0	0	0	0	0	40	40
応用力（実践・専門・融合）	0	0	0	0	0	20	20
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	0	0	20	20
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	0	0	20	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	バイオテクノロジー	
科目基礎情報							
科目番号	6015		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教材：教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料およびビデオ資料 参考図書：Essential細胞生物学原書第3版（南江堂）、基礎から学ぶ遺伝子工学（羊土社）、これだけはおさえたい生命科学（実教出版）、（キーワード：バイオテクノロジー、ES細胞、iPS細胞、COP10、次世代シーケンサー、再生医療、プレジジョン・メディシン、生態学、産地・品種判別、バイオレメディエーション）						
担当教員	池松 真也,磯村 尚子						
到達目標							
バイオテクノロジーについて理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
バイオテクノロジーとはどういうものかを例を挙げて説明できる。	産業応用できるバイオテクノロジーを複数例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジーの具体例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジーに関わる事項の大半について理解できる。		
各分野に応用されているバイオテクノロジーについて説明できる。	各自の分野に応用できるバイオテクノロジーを発見し、説明できる。		各自の分野に適合するバイオテクノロジーを説明できる。		授業で取り挙げたバイオテクノロジーについて理解できる。		
バイオテクノロジーの基礎用語・基礎事項を理解できる。	各授業項目で取り挙げられた基礎用語や基礎項目を理解し、それらを使用、利用しバイオテクノロジーを説明できる。		各授業項目で取り挙げられた基礎用語や基礎項目を理解できる。		各授業項目で取り挙げられた基礎用語や基礎項目の大半を理解できる。		
バイオテクノロジーの実際利用を考えることで情報収集力や経済的観点での商品開発力を培うことができる。	収集した情報をもとに経済的観点でバイオテクノロジーを応用した商品開発を提案できる。		バイオテクノロジーと経済という2つの観点から情報を収集できる。		バイオテクノロジーについての情報収集ができる。		
各自で企画したヨーグルトを実際に作製することで、バイオテクノロジーの実際を説明できる。	企画したヨーグルトを作製し、その科学的、経済的利点を説明できる。		企画したヨーグルトを作製できる。		バイオテクノロジーを応用したヨーグルトの作製法を理解できる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この授業は、実務経験者が企業における経験をもとに、バイオテクノロジーの基礎やヨーグルト商品の開発プロセスを通じたバイオテクノロジーの理解を主に講義形式で行うものである。【オムニバス方式】						
授業の進め方・方法	バイオテクノロジー（BT）を理解するために必要な理論・事象などをわかりやすく講義する。最先端のBTをビデオなどの補助教材を利用して講義するよう努める。BTの倫理的問題をパワーポイント補助教材で実例を紹介し、理解し易いよう講義する。BTと経済の関係を医薬品開発などを例に挙げ、講義する。BTをヨーグルト商品開発の企画・製作を通して実習する。 バイオテクノロジーと基礎分野（生態学）および身近な科学分野（環境学、農学・水産学）との関係をわかりやすく講義することで、バイオテクノロジーへの興味と理解を深める。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	バイオテクノロジー概論（担当：池松真也）		バイオテクノロジー（BT）の発展の歴史と現状を学ぶ。		
		2週	バイオテクノロジーの応用（1）（担当：池松真也）		BTが応用されたノーベル賞級の技術について学ぶ。		
		3週	バイオテクノロジーの応用（2）（担当：池松真也）		再生医療やプレジジョン・メディシンについて学ぶ。		
		4週	バイオテクノロジーと生命倫理（担当：池松真也）		BTの明と暗の例を挙げ、生命倫理について学ぶ。		
		5週	バイオテクノロジーの新しい潮流（担当：池松真也）		ヒトゲノム計画からオーダーメイド医療までを学ぶ。		
		6週	バイオテクノロジーと環境学（担当：磯村尚子）		環境学に関連したバイオテクノロジーを学ぶ。		
		7週	バイオテクノロジーと環境学（2）（担当：磯村尚子）		具体例として、次世代シークエンサーを用いた細菌相解析について学ぶ。		
		8週	後期中間試験		前半の授業のまとめと理解度の確認。		
	4thQ	9週	バイオテクノロジーと異分野融合（担当：磯村尚子）		生物資源工学と機械システム工学との共同研究について学ぶ。		
		10週	バイオテクノロジーの応用（3）（担当：磯村尚子）		バイオテクノロジーと泡盛醸造の接点を学ぶ。		
		11週	バイオテクノロジーの応用（4）（担当：池松真也）		微細藻類でバイオディーゼルを製造することを学ぶ。		
		12週	バイオテクノロジーの応用（5）（担当：池松真也）		腸内フローラをバイオテクノロジーへ応用することを学ぶ。		
		13週	テーマを持ったオリジナル・ヨーグルトの企画（担当：池松真也）		バイオテクノロジーを応用したヨーグルトの企画書を作成し、ヨーグルト作製の手順書を作成する。		
		14週	バイオテクノロジーの実際を説明（担当：池松真也）		企画書したヨーグルトについてプレゼンテーションする。		
		15週	ヨーグルト製作（担当：池松真也）		企画したヨーグルトを実際に制作する。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	20	30	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30

社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	0	0	10	10
主体的学修意欲	0	0	0	0	10	10	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	6021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 12		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	教員作成資料、企業作成資料						
担当教員	兼城 千波						
到達目標							
①長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる ②高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる ③就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる			実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる			実務経験を通し、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、自らの役割(立場)について日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる。	実務の内容と意義について理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる			実務の内容と意義について理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる		実務の内容と意義について理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 別紙、「長期インターンシップ実施要領」を必ず読み、行動すること。 ◎単位数 ・1ヵ月:4単位 ・2ヵ月:8単位 ・3ヵ月以上:12単位						
授業の進め方・方法	・実施要項を参照すること 【成績評価など】 研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する。60%以上を合格とする。 履修に必要な書類:受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、日報、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料、履修願 ◎単位数 ・1ヵ月:4単位 ・2ヵ月:8単位 ・3ヵ月以上:12単位						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス		インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
		2週	インターンシップ先企業研究		企業研究、大学受け入れ先検討		

		3週	インターンシップ	約4週間の企業研修・大学での研究 ①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる ②企業における社会的責任を理解できる ③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	2ndQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	インターンシップ	同上			
後期	3rdQ	1週	インターンシップ	同上			
		2週	インターンシップ	同上			
		3週	インターンシップ	同上			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	4thQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	成果報告会				

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	25	0	25
専門的能力	0	0	0	0	25	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	50	0	50

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	バイオマス利用工学
科目基礎情報						
科目番号	6023		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教材：教員自作プリント、パワーポイントなどプレゼン資料 参考図書：バイオマスハンドブック、バイオマス・エネルギー・環境、（キーワード：Biomass、バイオマス）					
担当教員	田邊 俊朗					
到達目標						
様々な情報収集と、討論による情報交換を行い、バイオマスとその有効利用に必要な前処理技術について理解する。技術者に必要とされるライフサイエンス・アースサイエンスの知識を有し、自らの工学の分野に関係するより複雑な課題に対しても応用できる。【MCC 5-2-5 II-E】						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限必要な到達レベル (可)		
バイオマスとはどういうものかを説明できる。		バイオマスについて網羅的に説明できる	複数のバイオマスについて部分的に説明できる	一部のバイオマスについては、部分的に説明できる		
バイオマスの変換利用に必要な前処理について説明できる。		バイオマスの前処理について物理処理、化学処理、生物学的処理、複合処理について講義内容に基づいて全て説明できる。	バイオマスの前処理について2, 3の例を挙げて説明できる。	バイオマスの前処理について部分的に説明できる。		
バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を理解する。		バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響を多面的に捉え深く理解できる。	バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響についてある一面からは良く理解できる。	バイオマスの有効利用が社会に及ぼす影響に興味を持ち、部分的に理解できる。		
バイオマスの有効利用についての知見を得る情報収集力と文献読解力を培い、とりまとめて発表出来る。		バイオマスの有効利用について多数の情報収集を行って、その内容を理解し発表出来る	バイオマスの有効利用について2、3の情報収集を行い、その内容を理解して発表出来る。	バイオマスの有効利用について興味を持ち、毎回1つの文献検索・読解と報告ができる。		
バイオマスの有効利用技術について討論できる。		報告した文献に関する質疑応答を通してバイオマスの有効利用技術について討論ができる。	報告した文献に関する質疑応答ができる。	報告した文献について内容に関する質問がなされたら答えられる。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	身近なものから始めてバイオマスについて理解できるよう、その変換と利用、解決すべき課題について講義する。					
授業の進め方・方法	講義と討論中心ではあるが、理解を深めるために実験・演習も行う。					
注意点	科目達成度目標①②③について60点満点の定期試験を行う。また、普段の学習・理解を重視し、検索した文献情報を報告させ、質疑応答を行う。各回の討論では、調査課題の発表を10点満点で評価する。またテーマに関連する質疑応答1回を1点として積算する。定期試験60%、発表10%、質疑応答点合計30%で成績を判断し100点満点中60点以上を合格とする。 ①自学自習欄の予習項目に関する文献検索と読解、報告用まとめの作成を課す。各2時間×15回 ②受講者全員の報告内容を共有し、復習としてまとめ報告書の提出を課す。各2時間×15回 この科目の主たる関連科目はバイオテクノロジー（専攻科1年）、酵素化学（専攻科1年）。（モデルコアカリキュラム）【MCC 5-2-5 II-E】 （学位審査基準の要件による分類・適用） ・専門科目 ① ② ③ ④ A-2群 生物工学の応用に関する科目					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	バイオマスとバイオマス変換とは	バイオマス変換全般について概論を理解する。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。地球温暖化の問題点、原因と対策について理解している。		
		2週	キチン質の分布と前処理	自然界におけるキチン質の分布と、抽出法を学ぶ。		
		3週	キチン質関連酵素群	抽出されたキチン質の利用に関わる酵素について知る。		
		4週	キチン質誘導体の応用	キチン質オリゴマーの生理活性を学ぶ。免疫系による生体防御のしくみを理解する。		
		5週	リグノセルロースの分布と前処理	植物系バイオマスの分布と前処理全般を学ぶ。		
		6週	リグノセルロースの前処理2	微生物・マイクロ波複合型前処理について知る。		
		7週	リグノセルロース関連酵素	リグノセルロースの利用に関わる酵素群について学ぶ。		
		8週	リグノセルロースの変換1	エタノール変換について学ぶ。		
	4thQ	9週	リグノセルロースの変換2	メタン変換・水素変換について学ぶ。		
		10週	廃棄物系バイオマスの変換1	農業系廃棄物の変換利用を学習する。		
		11週	廃棄物系バイオマスの変換2	工業系廃棄物の変換利用を学ぶ。人間活動と地球環境の保全について考えることができる		
		12週	バイオマス変換実験1	シュレッダーで断片化した紙の糖化を実習する。		
		13週	バイオマス変換実験2	紙-糖化液からのエタノール変換を実習する。		
		14週	バイオマス変換実験3	エタノール濃度を測定し、変換効率を求める。		
		15週	食糧と競合しないバイオマス	未利用かつ非食用資源の変換について学ぶ。		
		16週	期末試験			
評価割合						

	定期試験	小テスト	レポート	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	60	0	10	30	100
基礎的理解	60	0	0	0	60
応用力（実践・専門・融合）	0	0	0	0	0
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	10	30	40
主体的・継続的学習意欲	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造システム工学セミナー一般
科目基礎情報					
科目番号	6024	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年	専1		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材	配布資料、PPT				
担当教員	津村 卓也, 谷藤 正一				
到達目標					
①広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベル（優）	標準的な到達レベル（良）	最低限必要な到達レベル（可）	
広い視野・多角的視点①広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。		講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる	講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる	講義内容を適切に説明できる	
②各講義における目的を理解する。		講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる	講義の目的と自らの専門分野を関連性がわかる	講義の目的を示すことができる	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学内で開催される技術者講演会や高専機構・3機関連携で配信される技術者講演会を講義の対象とする。 したがって、内容は毎年変更される。 【連携教育科目】				
授業の進め方・方法	コマ15回以上の聴講およびレポート提出で採点対象となる。 履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。				
注意点	正しく説明できるかレポートで評価する。 【レポート内容必須事項】講演会日時、タイトル、講演者、講演内容の目的、講演内容、講義から得られた知見				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	企業技術者講演会1	学内メールなどで案内する	
		2週	企業技術者講演会2	学内およびネット配信の特別講義	
		3週	企業技術者講演会3	講義の案内は常時	
		4週	企業技術者講演会4	15回の聴講・レポート提出により評価する	
		5週	企業技術者講演会5		
		6週	など		
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					

	試験	小テスト	レポート	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	0	0	100	0	100
基礎的理解	0	0	50	0	50
応用力（実践・専門・融合）	0	0	50	0	50
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	0	0
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造システム工学セミナー専門
科目基礎情報					
科目番号	6025	科目区分		専門 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース	対象学年		専1	
開設期	通年	週時間数		1	
教科書/教材	配布資料、 P P T				
担当教員	津村 卓也,谷藤 正一				
到達目標					
①専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する	講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる	講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる	講義内容を適切に説明できる		
各講義における目的を理解する	講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる	講義の目的と自らの専門分野を関連性がわかる	講義の目的を示すことができる		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	協定校や連携企業で実施される専門分野を主とした講義・インターンシップなどで実習以外の講義・講義などの履修も可とする。単位数は、受講時間によって異なり、30時間：2単位、60時間：4単位、90時間：6単位、120時間：8単位を付与する。 【連携教育科目】				
授業の進め方・方法	受講先でレポートなどを提出し、受講証明を発行してもらう。				
注意点	履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。 【レポート内容必須事項】受講時間、受講内容、講義から得られた知見。受講先で提出したレポートや課題、受講先からの受講証明を添付すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス 1時間：派遣先で指定する講義	講義内容を十分に理解し、簡潔にまとめることができる	
		2週	各派遣先での講義 30～120時間：派遣先での講義	講義内容を十分に理解し、報告書及びプレゼン資料を的確に作成することができる	
		3週	最終レポート 2時間	定められた書式で、的確にレポートをまとめることができる	
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	70	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	特別研究IA
科目基礎情報						
科目番号	6201_a			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	3	
教科書/教材	教員が配布する資料					
担当教員	藤井 知,兼城 千波,高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔,宮城 桂,相川 洋平,亀濱 博紀,中平 勝也					
到達目標						
①研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること ②課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること ③これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること ④技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること ⑤研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること ⑥研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること 【VIII-A】 相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得てい 【VIII-B】 目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で 実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができ 【VIII-C】 ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用 できる。 【VIII-D】 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を 理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具 体的な実行策を絞り込むことができる。 【VIII-E】 複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定 をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自 分の意見や手順を論理的に展開できる。 【IX-F】 法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解でき る。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者 が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努 めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること		研究背景に基づいて、自ら目標設定ができている		研究背景に基づいて、教員と相談して、目標設定ができている		各発表やレポートにおいて、目標を述べている
課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること		研究課題に対して、自らの適性を考えて、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる		研究課題に対して、自らの適性を考え、教員と相談して、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる		進捗状況を報告することができる
これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること		実験・実習結果から問題点を自ら見出し、問題解決に繋げることができる		実験・実習結果から問題点を見出し、教員と相談して、問題解決に繋げることができる		図表を駆使して、自らの成果を説明できる
技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること		社会的に影響のある研究内容については、指導教員などに相談することができる		他者の成果や文献を引用し、それを適切に示すことができる		他者の成果や文献を引用することができる 社会的に影響のある内容の分別をつけることができる
研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること		研究に対する質問やコメントなどを真摯に受け止め、議論することができる		研究に対する質問やコメントなどに回答することができる		研究室のゼミや研究打合せなどを行うことができる
研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること		実験研究内容を論理的に報告書としてまとめることができる また、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションすることができる		研究成果を論文としてまとめることができる		中間発表や最終発表だけでなく、学会などで発表することができる
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		特別研究では、設定したテーマに関して、これまで講義や実験などで学んできた学修科目との関連性を考えながら、問題点や課題点を抽出し、課題の設定、実験計画の策定、実験実施、結果分析の一連のプロセスを自主的、計画的に遂行できる能力を育成する。 課題テーマに関する報告書・論文の作成と発表を通じて論理的で簡潔な科学技術文書の作成技術、明瞭的確な表現によるプレゼンテーションの能力を身につける。 研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 【複数教員担当方式】				
授業の進め方・方法		研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 成績の評価は以下の方法で実施する。 中間発表(20%)、報告書(60%)、研究・履修計画書(10%)、進捗状況報告(10%)				
注意点		【自学自習時間に対する対応】 ・論文・資料調査 各2時間×30週 ・研究計画書と実験ノートの作成 各1時間×30週 ・実験や実習（予備実験・追加実験など） 【その他】 ・この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学学科科目関連図一覧表を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分 専門科目 B 電気電子工学に関する実験・実習科目				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験		テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成	
		2週	調査研究・課題・研究計画・実験		各テーマの内容・進捗状況による	

		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		8週	中間報告	
	2ndQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		16週	最終報告	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	特別研究IB
科目基礎情報						
科目番号	6201_b			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	3	
教科書/教材	教員が配布する資料					
担当教員	藤井 知,兼城 千波,高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔,宮城 桂,相川 洋平,亀濱 博紀,中平 勝也					
到達目標						
①研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること ②課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること ③これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること ④技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること ⑤研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること ⑥研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること 【VIII-A】 相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得てい 【VIII-B】 目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で 実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができ 【VIII-C】 ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用 できる。 【VIII-D】 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を 理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具 体的な実行策を絞り込むことができる。 【VIII-E】 複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定 をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分 の意見や手順を論理的に展開できる。 【IX-F】 法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解でき る。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者 が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努 めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること	研究背景に基づいて、自ら目標設定ができている		研究背景に基づいて、教員と相談して、目標設定ができている		各発表やレポートにおいて、目標を述べている	
課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること	研究課題に対して、自らの適性を考えて、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる		研究課題に対して、自らの適性を考え、教員と相談して、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる		進捗状況を報告することができる	
これまで学んだ知識を総合し、問題解決の方法を見出せること	実験・実習結果から問題点を自ら見出し、問題解決に繋げることができる		実験・実習結果から問題点を見出し、教員と相談して、問題解決に繋げることができる		図表を駆使して、自らの成果を説明できる	
技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること	社会的に影響のある研究内容については、指導教員などに相談することができる		他者の成果や文献を引用し、それを適切に示すことができる		他者の成果や文献を引用することができる 社会的に影響のある内容の分別をつけることができる	
研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること	研究に対する質問やコメントなどを真摯に受け止め、議論することができる		研究に対する質問やコメントなどに回答することができる		研究室のゼミや研究打合せなどを行うことができる	
研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること	実験研究内容を論理的に報告書としてまとめることができる また、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションすることができる		研究成果を論文としてまとめることができる		中間発表や最終発表だけでなく、学会などで発表することができる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	特別研究では、設定したテーマに関して、これまで講義や実験などで学んできた学修科目との関連性を考えながら、問題点や課題点を抽出し、課題の設定、実験計画の策定、実験実施、結果分析の一連のプロセスを自主的、計画的に遂行できる能力を育成する。 課題テーマに関する報告書・論文の作成と発表を通じて論理的で簡潔な科学技術文書の作成技術、明瞭的確な表現によるプレゼンテーションの能力を身につける。 研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 【複数教員担当方式】					
授業の進め方・方法	研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 成績の評価は以下の方法で実施する。 中間発表(20%)、報告書(60%)、研究・履修計画書(10%)、進捗状況報告(10%)					
注意点	【自学自習時間に対する対応】 ・論文・資料調査 各2時間×30週 ・研究計画書と実験ノートの作成 各1時間×30週 ・実験や実習（予備実験・追加実験など） 【その他】 ・この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 。(航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分 専門科目 B 電気電子工学に関する実験・実習科目					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験		テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による	

		2週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		8週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
	4thQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成・各テーマの進捗状況による
		16週	最終報告	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	シミュレーション工学	
科目基礎情報							
科目番号	6204		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	COMSOLマルチフィジックスシミュレータ、計測エンジニアリング及びCOMSOLのサイトから関連する資料をダウンロードする。http://www.kesco.co.jp/comsol/、https://www.comsol.jp/comsol-multiphysics						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
有限要素法（FEM）の基礎原理を理解とこれまで学習した各種物理現象を振り返り、物理モデルや任意の偏微分方程式系に置ける単一もしくは複合した現象を、市販されている最新・最先端のシミュレーション技術をツールとして活用し、これら現実の複雑な現象を解析し分析できることを目指す。 ①有限要素法の基礎原理を基にした数値解析 ②3次元CADツール ③構造力学 ④伝熱							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
電気・機械・化学など複雑な現象に対し、統合的なモデルが構築出来、マルチフィジックスシミュレーションが行い、科学的かつ定量的に分析が行える		複雑な自然現象に対し、適切なモデルを構築と、適切な解析条件が、自ら、設定出来、マルチフィジックスシミュレーションが行え、実際の現象と比較しながら、科学的・定量的に、議論できる。		例示されたアルゴリズムに従って、シミュレーションを実行することができる。		サンプルのシミュレーションをそのまま実行することができる。	
有限要素法などの数値解析について原理的な説明が出来る。		有限要素法などの数値解析について、その特徴や欠点について述べる事が出来、解析結果の妥当性について説明できる。		有限要素法などの数値解析について、その特徴や欠点について述べる事が出来る。		数値解析の特徴について述べる事が出来る。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	物理現象や社会現象をモデル化する方法とそのモデル式を講義したのち、COMSOLマルチフィジックスシミュレータを用いてモデル構築を行い、解析を実施する。						
授業の進め方・方法	解析モデルを説明し、その実際にCOMSOLシミュレータを操作しシミュレーションを実施する。授業中に終えることのできなかった課題は、自学自習時間で達成する。講義期間中、課題のモデルを幾つか提示しそのシミュレーションを実施し、自らの考察を加える。後半、電磁界主シミュレーションが中心になるため、前期マイクロ波工学を履修を推奨。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		シミュレーションとは何かを理解し、COMSOLの設定を行う		
		2週	有限要素法の基礎（1）		有限要素法を手計算により計算することが出来る。		
		3週	有限要素法の基礎（2）		有限要素法の考え方を理解し、説明できる。		
		4週	COMSOLの使用方法		COMSOLの操作方法について習熟する。		
		5週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（1）		与えられた構造モデルをCOMSOL内に構築し計算できる。		
		6週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（2）		与えられた構造モデルをCOMSOL内に構築し計算できる。		
		7週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（3）		自ら考えた構造モデルをCOMSOL内に構築し計算できる。		
		8週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（4）		与えられた電気と伝熱モデルをCOMSOL内に構築し計算できる。		
	4thQ	9週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（5）		与えられた電気と伝熱モデルをCOMSOL内に構築し計算できる		
		10週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（6）		自ら考えた電気と伝熱モデルをCOMSOL内に構築し計算できる		
		11週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（7）		与えられた電磁気モデルをCOMSOL内に構築し計算できる		
		12週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（8）		与えられた電磁気モデルをCOMSOL内に構築し計算できる		
		13週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（9）		自ら考えた電磁気モデルをCOMSOL内に構築し計算できる		
		14週	COMSOLを用いたモデル構築・解析（10）		マルチフィジックスシミュレータのモデルを構築し、計算できる		
		15週	まとめ・発表 各課題と自ら考えたモデルの計算結果を発表				
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	15	15	0	0	90
基礎的能力	0	20	5	5	0	0	30
専門的能力	0	20	5	5	0	0	30

分野横断的能力	0	20	5	5	0	0	30
---------	---	----	---	---	---	---	----

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	数理計画法
科目基礎情報						
科目番号	6205		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教員自作のプリント, パワーポイントの資料					
担当教員	神里 志穂子					
到達目標						
"最適化やモデル化手法と線形計画などのアルゴリズムに関して理解する。 【V-D-7】 ①最適化の概念やモデル化手法の基礎を理解する 【V-D-7】 ②線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する 【V-D-7】 ③非線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する"						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
最適化の概念やモデル化手法の基礎を理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら最適化の概念と現象のモデル化に関する説明ができる		教科書や資料に従って最適化の概念と現象のモデル化の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら最適化の概念と現象のモデル化の説明ができる	
線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料に従って線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料を見ながら線形計画問題に関する説明ができる	
非線形計画の基本的なアルゴリズムを理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら非線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料に従って非線形計画問題に関する説明ができる		教科書や資料を見ながら非線形計画問題に関する説明ができる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	講義では、最適化問題について例題をあげ、線形計画、非線形計画、ネットワーク計画について基本的な理論を学習し、生産計画問題や最短経路問題などを通して、基本的な概念について理解を深める					
授業の進め方・方法	最適化問題に対して基本的な概念を学び、その計算方法のアルゴリズムを習得する。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、最適化問題の役割・概念		1年間の授業の進め方や課題の提出方法を説明する、最適化問題の役割や概念を学習する	
		2週	線形計画問題		線形計画問題と定式化について学習する	
		3週	標準形の線形計画問題		線形計画問題の標準形に関して学修する	
		4週	シンプレックス法		シンプレックス法に関して学習する	
		5週	シンプレックスタブロー		タブローを用いた手法に関して学習する	
		6週	2段階シンプレックス法		2段階シンプレックス法に関して学習する	
		7週	2段階シンプレックス法		2段階シンプレックス法に関して学習する	
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	改訂シンプレックス法		改訂シンプレックス法に関して学習する	
		10週	双対問題		線形計画における双対性に関して学習する	
		11週	感度解析		感度分析に関して学習する	
		12週	整数計画問題		ナップサック問題に関して学習する	
		13週	整数計画問題		スケジューリング問題に関して学習する	
		14週	非線形計画法		非線形計画問題に関して学習する	
		15週	非線形計画法		非線形問題の最適化手法に関して学習する	
		16週	期末試験			
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	10	70	
専門的能力	20	0	0	0	20	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	10	10	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	信号処理特論
科目基礎情報						
科目番号	6208		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「MATLAB対応デジタル信号処理」(森北出版)					
担当教員	中平 勝也					
到達目標						
信号処理の基本的な用語や考え方と、時間領域と周波数領域とフーリエ変換を理解した上で、デジタルフィルタの基本を設計できることを目標とする。 【V-C-7】制御：伝達関数、システムの応答、フィードバック系の安定判別等制御工学に関する基本的な理論を説明できる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目1 信号処理の基本的な用語や考え方と、時間領域と周波数領域とフーリエ変換を理解できる。		これまでに学習した他の科目と関連付けながら信号処理と実問題に対応付けながら説明ができる。	教科書や資料に従って信号処理の概念の要点を説明できる。	教科書や資料を見ながら信号処理の概念の説明ができる。		
評価項目2 デジタルフィルタの基本を設計できる		これまでに学習した他の科目と関連付けながらデジタルフィルタに関しての説明と実装ができる。	教科書や資料に従ってデジタルフィルタに関しての要点の説明と実装ができる。	教科書や資料を見ながらデジタルフィルタに関しての説明ができる		
評価項目3 デジタル信号処理に関する応用演習および自発的・継続的な学習を身につける。		これまでに学習した他の科目と関連付けながらデジタル信号処理に必要となる計算ができる。	教科書や資料に従ってデジタル信号処理に必要となる計算ができる。	教科書や資料を見ながらデジタル信号処理に必要となる計算ができる。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	通信および情報工学の分野の基盤である信号処理の基礎と応用を習得する。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式で、章毎にレポートを課す。自分のノートを作ること。演習はすべて解くこと。					
注意点	(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目は、離散数学(3年)、信号処理(4年)、◎情報理論(5年)、◎生体情報工学(専攻科2年)である。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分：【A群(講義・演習科目)】 情報通信工学に関する科目					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス、信号処理の基礎	シラバスを用いて、授業の進め方を説明する。また、信号処理の基礎を復習する。		
		2週	信号処理の基礎	フーリエ変換など信号処理の基礎を復習する。		
		3週	デジタルフィルタの基礎	デジタルフィルタの基本的な役割や概要を学ぶ。		
		4週	デジタルフィルタの基礎	たたみこみ表現、接続、安定性と因果性について学ぶ。		
		5週	デジタルフィルタの基礎	線形差分方程式、デジタルフィルタの構造について学ぶ。		
		6週	デジタルフィルタの基礎	デジタルフィルタの周波数応答について学ぶ。		
		7週	デジタルフィルタの基礎	z変換の性質と逆z変換について学ぶ。		
		8週	デジタルフィルタの基礎	伝達関数と周波数応答、時間応答と安定性について学ぶ。		
	4thQ	9週	周波数選択性デジタルフィルタ	周波数選択性デジタルフィルタの概要について学ぶ。		
		10週	周波数選択性デジタルフィルタ	設計仕様の与え方、線形特性について学ぶ。		
		11週	周波数選択性デジタルフィルタ	FIRフィルタの設計について学ぶ。		
		12週	周波数選択性デジタルフィルタ	IIRフィルタの設計について学ぶ。		
		13週	2次元信号処理	2次元信号処理の基礎を学ぶ。		
		14週	2次元信号処理	2次元フィルタの基礎を学ぶ。		
		15週	全体のまとめ	これまで学んだことを復習するとともに、体系づけて理解することで、知識の定着を図る		
		16週	期末試験	これまでのまとめ		
評価割合						
	試験	発表	レポート	合計		
総合評価割合	50	25	25	100		
基礎的能力	30	25	25	80		
専門的能力	20	0	0	20		

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	マイクロ波工学	
科目基礎情報							
科目番号	6210		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	マイクロ波工学の基礎・日本理工出版会・平田仁 著						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
マイクロ波工学の基礎技術として、電磁波の性質、伝送線路、共振器、導波管、同軸線路、ストリップ線路の基本的な回路を教科書の構成に沿って体系的に学び、修得すること目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)		
マイクロ波回路の技術用語と基礎理論、技術を理解する。	マイクロ波回路の技術用語と基礎理論、技術を理解し、詳細に説明できる。		マイクロ波回路の技術用語と基礎理論、技術を理解し、概要を説明できる。		マイクロ波回路の技術用語と基礎理論、技術を教科書を見ながら理解し、概要を説明できる。		
電波関連用語等を用いて技術的コミュニケーションや報告書の作成等ができるようにする。	電波関連用語等を用いて技術的コミュニケーションや報告書を詳細に作成できる。		電波関連用語等を用いて技術的コミュニケーションや報告書の概要を作成できる。		電波関連用語等を用いて技術的コミュニケーションや報告書を教科書を見ながら概要を作成できる。		
マイクロ波に関する基本的な事項に関して、実務的な計算ができるようにする。	マイクロ波に関する全ての事項に関して、数式等を用いて定量的に表現し、計算できる。		マイクロ波に関する基本的な事項に関して、数式等を用いて定量的に表現し、計算できる。		マイクロ波に関する基本的な事項に関して、教科書を見ながら数式等を用いて定量的に表現し、計算できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	マイクロ波工学の基礎技術として、電磁波の性質、伝送線路、共振器、導波管、同軸線路、ストリップ線路の基本的な回路を教科書の構成に沿って体系的に学ぶ。						
授業の進め方・方法	定期試験（60%）とレポート（40%）で評価する。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			授業の目標、概要、進め方	
		2週	電磁波の基礎関係式（1）			電磁波の方程式と物理量、境界条件を理解し、説明できる。	
		3週	電磁波の基礎関係式（2）			ポインティングベクトルとエネルギー定理を理解し、説明できる。	
		4週	等方媒質中の電磁波（1）			波動方程式とヘルツベクトルを理解し、説明できる。	
		5週	等方媒質中の電磁波（2）			平面波の波動方程式、波数、電波インピーダンスを理解し、説明できる。	
		6週	等方媒質中の電磁波（3）			平面波による電磁波の合成を理解し、説明できる。	
		7週	等方媒質中の電磁波（4）			TEM波、TE/TM波を理解し、説明できる。	
		8週	等方媒質中の電磁波（5）			導体媒質中の平面波を理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	等方媒質中の電磁波（6）			マックスウエルの方程式から波を導出でき、説明できる。	
		10週	伝送線路（1）			電信方程式、波動方程式、伝搬波を理解し、説明できる。	
		11週	伝送線路（2）			終端した線路、反射係数、定在波を理解し、説明できる。	
		12週	伝送線路（3）			伝送線路上のインピーダンス変換を理解し、説明できる。	
		13週	伝送線路（4）			水橋－スミス図表を理解し説明できる。	
		14週	伝送線路（5）			導波系接合部のマトリックス表示を理解し説明できる。	
		15週	伝送線路（6）			伝送線路を俯瞰的に理解し、説明できる。	
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	20	20	0	0	0	0	40
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	システム L S I 設計工学	
科目基礎情報							
科目番号	6211		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	最低限必要な 到達レベル (可)						
担当教員	山田 親稔						
到達目標							
システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎を理解できる。システム L S I の設計手法を理解できる。 【V-D-3:5-5】 コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している。 【V-D-3:6-1】 ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベル (可)	
設計の基礎の理解について課題発表により評価する。		システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎と開発手法を理解でき、工夫した構成法を検討できる。		システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎と開発手法を理解できる。		システムLSI設計およびHW/SW協調設計の基礎を理解できる。	
設計手法の理解について課題レポートにより評価する。		システム L S I の設計手法を理解し構成を工夫して実装できる。		システム L S I の設計手法を理解し実装できる。		システム L S I の設計手法を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		システムLSI設計の上位設計から実装設計までの設計手法の基礎知識を習得する。 授業は統一プラットフォームの組込み機器を用いて、各自で設計するシステムを立案し、システムを実装することを目指す。毎回の講義の始めに進捗状況を報告し、最終的に課題レポートを作成する。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	システム L S I の概要		シラバスを用いた講義および概要の説明		
		2週	システムレベル設計 (1)		システム L S I 設計の流れ 【V-D-3:5-5】 コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて理解している。		
		3週	システムレベル設計 (2)		システムレベル設計の流れ 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。		
		4週	システムレベル設計 (3)		機能仕様設計, アーキテクチャ設計, 通信設計 【V-D-4:2-1】 システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを理解している。 【V-D-4:2-2】 ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。		
		5週	システムレベル設計 (4)		C 言語ベース設計		
		6週	システムレベル設計 (5)		HW / SW 協調シミュレーション		
		7週	組込みソフトウェア開発技術		組込みソフトウェア向けコンパイラ, 組込み OS		
		8週	中間課題報告		課題作成状況の中間報告		
	2ndQ	9週	ハードウェア設計手法 (1)		ハードウェア記述言語 【V-D-3:6-1】 ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。		
		10週	ハードウェア設計手法 (2)		高位合成, 論理合成		
		11週	ハードウェア設計手法 (3)		レイアウト合成, タイミング解析, 低消費電力設計		
		12週	検証と検査 (1)		動的検証, 静的検証		
		13週	検証と検査 (2)		故障モデル, テスト容易化設計		
		14週	システム L S I 設計の将来動向		I P コアによる再利用技術, プログラマブル素子の利用		
		15週	まとめ		課題発表を行う		
		16週					
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート	その他 (演習課題・発表・実技・成果物等)	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	50	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	25	0	0	25

応用力（実践・専門・融合）	0	0	25	0	0	0	25
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	25	0	0	25
主体的・継続的 学修意欲	0	0	25	0	0	0	25

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	光電子デバイス	
科目基礎情報							
科目番号	6212			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	授業項目によって、プリント、パワーポイントを使用						
担当教員	高良 秀彦						
到達目標							
光通信や光情報処理に用いられる半導体レーザダイオード、PINフォトダイオード、光増幅器、光変調器などの様々な光デバイスの動作原理、構造および特性の基礎について理解する。光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術、およびこれらを統合した光通信システムの基礎について理解する。							
【V-C-4】電子工学:電子工学系領域では、電子物性の基礎を学び、半導体や半導体デバイスの基本的事項を習得することを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
主に光通信に使用する光デバイス、光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用について基礎的な知識を理解する。	主に光通信に使用する半導体光デバイス、光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用、製造技術について応用問題を解くことができる。			主に光通信に使用する半導体光デバイス、光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用、製造技術について基本問題を解くことができる。		主に光通信に使用する半導体光デバイス、光増幅器・変調器の動作原理・構造・機能・応用、製造技術について用語が理解できる。	
光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術、およびこれらを統合した光通信システムの基礎的な知識を理解する。	光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術、およびこれらを統合した光通信システムの応用問題を解くことができる。			光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術、およびこれらを統合した光通信システムの基本問題を解くことができる。		光デバイスを用いた光送信技術、光中継技術、光受信技術、およびこれらを統合した光通信システムの用語が理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1. 授業は講義を主体としながら、デバイス観察、変調波形観測などを適宜実施して理解を深める。 2. 演習問題、英文解読などの課題をこなして応用力を身につける。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	光通信・光デバイス		光通信および光デバイスの基礎		
		2週	光デバイス 1		発光素子の原理・構造・応用		
		3週	光デバイス 2		光変調器の原理・構造・応用		
		4週	光デバイス 3		受光素子の原理・構造・応用		
		5週	光デバイス 4		光増幅器の原理・構造・応用		
		6週	光デバイス 5		3 R回路の原理・構造・応用		
		7週	光デバイス 6		光伝送路の原理・構造・応用		
	2ndQ	8週	中間試験		週 1 ～ 7 の授業で学んだ内容について試験を行う		
		9週	光通信システム 1		光送信・光受信技術		
		10週	光通信システム 2		光変復調技術		
		11週	光通信システム 3		光中継技術		
		12週	光通信システム 4		光伝送技術		
		13週	光通信システム 5		多重技術（時間分割多重）		
		14週	光通信システム 6		多重技術（波長分割多重）		
		15週	光通信システム 7		多重技術（空間分割多重）		
		16週	期末試験		週9～15の授業で学んだ内容について試験を行う		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	半導体物性工学	
科目基礎情報							
科目番号	6213		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	電子物性(松澤剛雄他 森北出版)						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
電子や原子などの性質を理解し、金属や半導体などの材料物性を理解する。半導体とそれを用いたデバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。(電子や原子等の基本的性質を理解し、金属や半導体の物性の理解に役立てられる。半導体の基本的性質を理解し、pn接合の特性やトランジスタの動作原理等を説明できる。物質を構成する様々な元素の性質を理解し、それらの性質が、電子の振る舞いによることを周期表と関連付けて理解できる。元素の組み合わせからなる無機元素および化合物の構造、結合状態、性質について説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要なレベルの目安(可)		
電子や原子などの性質を理解し、金属や半導体など材料物性を理解する。	磁性、誘電性、圧電性を説明できる・固体のエネルギーと質量の関係について説明できる・ダブルヘテロなどの特殊構造を説明できる		金属・半導体・絶縁体の区別を説明できる・半導体の結晶構造とエネルギーバンドについて説明できる・不純物半導体(p型、n型)の作り方(構成)を説明できる		電子の電荷量や質量、単位などの基本性質を説明できる・原子の基本的構造を説明できる・真性半導体と不純物半導体の区別できる・元素半導体と化合物半導体の区別ができる		
半導体とそれを用いたデバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。	実験などできる得られるデータからパラメータを抽出できる		エネルギーバンド図を用いて、pn接合大オード、バイポーラトランジスタ、ユニポーラトランジスタの動作原理と電気特性を理解できる		pn接合の構造をエネルギーバンド図から説明できる・バイポーラトランジスタの構造をエネルギーバンド図から説明ができる・ユニポーラトランジスタの構造をエネルギーバンド図から説明ができる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	半導体の原理、構造、エネルギーバンドについて学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業の一部を輪講形式で行い、作成資料を評価対象とする。						
注意点							
授業計画							
後期		週	授業内容		週ごとの到達目標		
	3rdQ	1週	結晶構造		イオン結合、共有結合、金属結合、結晶構造を理解し、説明できる		
		2週	格子振動		格子振動、格子振動の量子化を理解し、説明できる。		
		3週	固体の熱的性質		固体比熱、アインシュタイン理論、熱伝導を理解し、説明できる		
		4週	古典的電子伝導モデル		自由電子、ドリフト速度、緩和時間、移動度を理解し、説明できる。		
		5週	量子力学の基礎		物質の粒子性と波動性、波動方程式、トンネル効果、パウリの排他律を理解し、説明できる		
		6週	固体のエネルギーバンド理論		自由電子モデル、フェルミディラック分布、クローニツヒ・ペニーモデル、結晶内の電子運動を理解し、説明できる。		
		7週	半導体と金属の電気的性質		真性半導体・不純物半導体、ダイオードの動作とエネルギーバンド・電気特性を理解し説明できる		
		8週	中間テスト				
	4thQ	9週	半導体デバイス		バイポーラ・ユニポーラトランジスタの動作とエネルギーバンド・電気特性を理解し、説明できる。		
		10週	固体の光学的性質		光の吸収と反射、光電効果、太陽電池、半導体レーザを理解し説明できる。		
		11週	誘電体		誘電率と分極を理解し説明できる。		
		12週	磁性体		磁化率と透磁率、反磁性体、強磁性体、常磁性体を理解し説明できる。		
		13週	超伝導体		超伝導現象、高温超伝導を理解し、説明できる。		
		14週	固体の量子効果		量子井戸、超格子、エネルギーバンド、量子化、電気伝導を理解し、説明できる。		
		15週	デバイス特性解析		測定データからの各種パラメータの導出し、説明できる。		
16週		期末試験					
評価割合							
	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	15	15	0	0	0	90
基礎的能力	20	5	5	0	0	0	30
専門的能力	20	5	5	0	0	0	30
分野横断的能力	20	5	5	0	0	0	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	L S I プロセス工学	
科目基礎情報							
科目番号	6216		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	配布資料、 P P T						
担当教員	兼城 千波						
到達目標							
①半導体デバイスおよび集積回路の設計・製作方法について理解する。 ②製造工程の物理現象について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
半導体デバイスおよび集積回路の設計・製作方法について理解する。	・ 資料を見ず、デバイスおよび集積回路の作製方法について自分の言葉で説明できる		・ 資料を見ず、デバイスおよび集積回路の作製方法について説明できる		・ 資料を見ながら、デバイスおよび集積回路の作製方法について説明できる		
製造工程の物理現象について理解する。	・ 資料を見ず、製造工程の物理現象について自分の言葉で説明できる		・ 資料を見ず、製造工程の物理現象について説明できる		・ 資料を見ながら、製造工程の物理現象について説明できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、MOSトランジスタの製作方法を中心に半導体素子および集積回路の設計・製作を解説し、実施に用いられる装置を使いながら講義する。						
授業の進め方・方法	・ 授業の一部を輪講形式で行い、作成資料を評価対象とする。LSIがどのように製作されるかを表現・説明できるようにすることを求める。 ・ 履修に際しては、電子回路および半導体工学などの科目を履修していることが望ましい。 評価：定期試験（中間・期末）（80％）＋レポート・輪講資料（20％）（A-4） 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60％以上を合格とする。						
注意点	【自学自習に対する対応】 【その他】 ・ この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。（モデルコアカリキュラム） ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 ・ 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 科目区分 専門科目 A 電子工学に関する科目						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	集積回路における微細加工1		微細加工技術・スケーリング則について理解する		
		2週	集積回路における微細加工2		プレーナ技術について（ダイオード構造と製作過程）理解する		
		3週	集積回路における微細加工3		フォトリソグラフィーについて理解する		
		4週	集積回路における微細加工4		エッチング法（ウェット・ドライ）について理解する		
		5週	集積回路における微細加工5		不純物導入（pn接合）について理解する		
		6週	集積回路における微細加工6		成膜方法（CVD・PVD法）について理解する		
		7週	集積回路における微細加工7		シリコン酸化膜形成について理解する		
		8週	中間試験		これまでの講義内容について試験で到達度を評価する		
	2ndQ	9週	半導体素子・集積回路設計1		MOSトランジスタの構造と製作方法について理解する		
		10週	半導体素子・集積回路設計2		DRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		11週	半導体素子・集積回路設計3		DRAMの構造について2（製造）理解する		
		12週	半導体素子・集積回路設計4		DRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		13週	半導体素子・集積回路設計5		SRAMの構造について2（製造）理解する		
		14週	半導体素子・集積回路設計6		SRAMの構造について1（機能・設計）理解する		
		15週	半導体素子・集積回路設計7		フラッシュメモリーの構造について2（製造）理解する		
		16週	期末試験		これまでの講義内容について試験で到達度を評価する		
評価割合							
	試験	輪講	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	航空工学I	
科目基礎情報							
科目番号	8001		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	【教科書】航空工学講座 第9巻 <航空電子・電気の基礎>、第10巻 <航空電子・電気装備>						
担当教員	高良 秀彦,谷藤 正一,相川 洋平						
到達目標							
①航空整備に関わる分野のうち、電気整備を理解するために必要な電気・電子工学の基礎を理解する。 ②電気電子回路を理解し、電子部品、電気計測、電気機械、制御への応用を学ぶ。							
ルーブリック							
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
航空整備に関わる分野のうち、電気整備を理解するために必要な電気・電子工学の基礎を理解する。			・回路を見て、どのような動作・機能処理が行われているか、理解している。 ・電界と磁界の作用について詳細に理解し、具体的に説明できる。		・SI単位系における基本単位と組立単位について詳細に理解している。 ・直流回路・交流回路を理解し、説明することができる。 ・電界と磁界の作用について詳細に理解し、説明できる。		・SI単位系における基本単位と組立単位について概略を理解している。 ・簡単な直流回路・交流回路を理解している。 ・電界と磁界の作用について理解している。
電気電子回路を理解し、電子部品、電気計測、電気機械、制御への応用を学ぶ。			・電気部品・電子部品の機能の詳細を理解し、取り扱うことができる。 ・電気計測の詳細を理解し、使い方を説明できる。 ・電気機器の詳細を理解し、使い方を説明できる。 ・制御機構の詳細を理解し、使い方を説明できる。		・電気部品・電子部品の機能の詳細を理解している。 ・電気計測の詳細を理解している。 ・電気機器の詳細を理解している。 ・制御機構の詳細を理解している。		・電気部品・電子部品の概略を理解している。 ・電気計測の概略を理解している。 ・電気機器の概略を理解している。 ・制御機構の概略を理解している。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(概要) 航空機を制御する電気系統の基礎学習として、単位、静電気、電気回路、電子回路について学ぶ。また、電気装備の学習として、電子部品、電気機械について学修し、電気計測、制御工学について学修する。 【オムニバス方式】 第1～3, 6～7回を高良秀彦教授が担当。第4, 13～15回を相川洋平助教が担当。第5, 9～12回を谷藤正一教授が担当						
授業の進め方・方法	評価：定期試験（中間・期末）（80%）、レポート（20%） 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。 ・予習復習はシラバスを見て、しっかり自己学習すること。						
注意点	【自学自習の対応】 ・レポート（その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。）各8時間×4回 ・毎週の講義の予習復習 各2時間×15回 【その他】 ・この科目の主たる関連科目は、電子回路Ⅰ（情報・3年）、電子回路Ⅱ（情報・3年）、半導体工学（情報・3年）、集積回路Ⅰ（情報・4年）、集積回路Ⅱ（情報・5年）である。 （航空技術者プログラム） ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 【機械システム工学コース】A群（講義・演習科目） 機械力学・制御に関する科目 【電子通信システム工学コース】A群（講義・演習科目） 電気電子工学の基礎となる科目 【情報工学コース】A群（講義・演習科目） 電気電子・通信・システムに関する科目						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	電気電子の基礎【航】			(高良) 単位系、静電気、電位、電流、オームの法則	
		2週	直流回路と交流回路①【航】			(高良) 直流の性質、直並列回路、インダクタンス回路、キャパシタンス回路	
		3週	交流回路②【航】			(高良) 共振回路、変圧器、3相交流	
		4週	電界と磁界【航】			(相川) 電界、静電気、磁気、電流と磁界、レンツの法則	
		5週	電気部品と配線【航】			(谷藤) 電線、コネクタ、受動部品、配線	
		6週	電子部品【航】			(高良) 電子放出、半導体素子、集積回路	
		7週	電子回路【航】			(高良) 電源回路、増幅回路、発振回路、変復調回路	
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	電気計測【航】			(谷藤) 電気電子計測計器、オシロスコープ	
		10週	電気機械【航】			(谷藤) 発電機、電動機	
		11週	電子機器①【航】			(谷藤) 回路モジュール、ディスプレイ	
		12週	電子機器②【航】			(谷藤) 受信機、送信機、ノイズ対策	
		13週	自動制御①【航】			(相川) サーボ機構	
		14週	自動制御②【航】			(相川) フィードバック制御	
		15週	デジタル技術【航】			(相川) 2進数、論理回路、データ・バス、コンピュータ	
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100

基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50
專門的能力	40	10	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	航空工学II	
科目基礎情報							
科目番号	8002			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	担当教員作成のPPT資料、航空工学講座2（飛行機構造）、配布プリント						
担当教員	眞喜志 隆,津村 卓也,政木 清孝						
到達目標							
航空機の構造を理解する上で重要である、部材の組み合わせ方法、疲労強度の推定、圧力容器の強度、梁の強度、組合せ応力の求め方を学修し、航空機構造について理解する ・本科目は航空技術者プログラムの履修科目である							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)	
基本的ないくつかの構造についてその特徴を理解し、説明できる	航空機に使われている基本的な構造と実際の機体との関連について説明できる			航空機に使われている基本的な構造体の力学的な特徴を説明できる		航空機に利用されている構造体の基本的な説明ができる	
疲労破壊に関連した設計基準について理解し、説明できる	疲労破壊を考慮した機体設計の基準について説明できる			疲労破壊を考慮した機体構造に知て説明できる		疲労破壊の基礎について説明できる	
圧力容器としての機体構造について理解し、説明することができる	機体構造を薄肉の圧力容器として強度について説明できる			薄肉の圧力容器の強度について説明できる		薄肉容器の強度について説明できる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	航空技術者プログラムの科目である。本科機械システム工学科での材料力学設計・機械材料・材料科学での履修内容が基礎とし、飛行機構造のうち機体の構造のもとなる工学要素について講義する。 【注意】講義回数8～14は5月30日（火）と31日（水）での集中講義を行う予定である。 【オムニバス方式】 第1～5回，第9～15回を眞喜志隆教授が担当。第6，7回を政木清孝准教授が担当。第8，9回を津村卓也准教授が担当						
授業の進め方・方法	【注意】講義回数8～14は5月30日（火）と31日（水）での集中講義を行う予定である。						
注意点	・本科目は航空技術者プログラムの履修科目である						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	航空構造と航空機材料の概要		航空機構造を構成する部材形状について説明できる		
		2週	構造の種類		トラス構造の解説とその強度について説明できる		
		3週	構造の種類		応力外皮構造の解説とその強度について概要を説明できる		
		4週	安全設計		安全率の考え方と基本的な求め方を説明できる		
		5週	安全設計		疲労破壊と安全率について説明できる		
		6週	航空機構造		翼の構造について概要を説明できる		
		7週	航空機構造		圧力容器の強度計算を説明できる		
		8週	モノコック構造のせん断曲げ		モノコック構造のせん断曲げについて概要を説明できる		
	2ndQ	9週	モノコック構造のねじり		モノコック構造のねじりについて概要を説明できる		
		10週	モノコック構造のwarping		モノコック構造のwarpingについて概要を説明できる		
		11週	モノコック構造の曲げねじり		モノコック構造の曲げねじりについて概要を説明できる		
		12週	セミ・モノコック構造のせん断曲げ		セミ・モノコック構造のせん断曲げについて概要を説明できる		
		13週	セミ・モノコック構造のねじり，曲げねじり		セミ・モノコック構造のねじりおよび曲げねじりについて概要を説明できる		
		14週	せん断場理論		せん断場理論について概要を説明できる		
		15週	航空機構造		胴体の構造について説明できる		
		16週	学期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	実用英語II
科目基礎情報						
科目番号	6002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Global Leadership (金星堂)					
担当教員	青木 久美,飯島 淑江					
到達目標						
本科五年間と専攻科1年間で身に着けた基礎力を基に、実践で役立つような英語運用能力を養成する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
語彙の意味を理解し、綴れるようにする	小テストの間に90%以上正解している。		小テストの間に75%以上正解している。		小テストの間に60%以上正解していない。	
リスニング・リーディング能力を習得する。	TOEICで総合点が425点以上取得できている。		TOEICで総合点が425点程度取得できている。		TOEICで総合点が400点以上取得できていない。	
一般的な内容に加えて、専門に関する英文を読み、その概要を把握できる。	週に5000語以上（半期で75,000語以上）の英文を読み、その内容を詳細に理解できている。		週に4500語以上（半期で67,500語以上）の英文を読み、その内容をよくに理解できている。		週に4000語以上（半期で60,000語以上）の英文を読み、その内容をだいたい理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科五年間と専攻科1年間で身に着けた基礎力を基に、実践で役立つような英語運用能力を養成する。 【複数教員担当方式】					
授業の進め方・方法	毎回単語テストを実施し、語彙力をつけます。 幅広いトピックの英文を読みます。					
注意点	週に5000語以上（半期で75000語以上）のリーディングを行い、学期末に読書記録手帳を提出すること。・2015年8月以降のTOEIC IPテストあるいは公開テストを受験し、スコアが上がった場合は、そのスコアレポートを提出し、申告すれば学期末に成績の書き換えを行います。 * 目標スコア：500点					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の概要・方針についての説明、問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		2週	問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		3週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		4週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		5週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		6週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		7週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
		8週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	
	2ndQ	9週	小テスト, 問題集の解説・解答		・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。	

	10週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	11週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	12週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	13週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	14週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	15週	小テスト, 問題集の解説・解答	・幅広いトピックの英文を読む力をつける。 ・語彙力をつける。 ・英語を聴いて理解する能力を高め、英語による表現力を養成する。 ・5000語以上のリーディングを行う。
	16週		

評価割合

	定期試験	小テスト	発表・実技・成果物・演習 課題	合計
総合評価割合	40	20	40	100
基礎的能力	20	10	20	50
応用量	10	0	10	20
主体的継続的学習意欲	10	10	10	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本文化論
科目基礎情報						
科目番号	6003		科目区分		一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2	
開設期	前期		週時間数		2	
教科書/教材	教員編成資料 校外学習で訪問する現場					
担当教員	澤井 万七美					
到達目標						
世界から注目される日本および沖縄の文化の現状と課題を考察する。 ①文化と社会の関係をより深く知る。 ②文化をベースにした多様な情報発信の可能性を考える。 ③ディスカッションを通して、より多角的な思考を深める。 【Ⅲ-A】 【Ⅲ-C】 【Ⅶ-A】 【Ⅶ-B】 【Ⅶ-C】 【Ⅶ-D】 【Ⅶ-E】 【Ⅸ-F】 【X-A】						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安
文化と社会との関係を多角的に捉える視点を持つことができる。		「文化」の定義ならびに古今東西の社会との関係について理解し、独自の視点で課題を発見することができる。		「文化」の定義ならびに古今東西の社会との関係について理解し、課題を発見することができる。		「文化」の定義ならびに古今東西の社会との関係について理解することができる。
文化を活用したプロジェクトの立案・プレゼンテーション・レポート作成を通じて、発見した課題とその解決方法を他者に伝えることができる。		文化を活用したオリジナルのプロジェクトを立案し、プレゼンテーションおよびレポートそれぞれの形式で、他者に効果的に伝達し、質疑応答にも適切に対応した上で、自己改善をすることができる。		文化を活用したオリジナルのプロジェクトを立案し、プレゼンテーションおよびレポートそれぞれの形式で、効果的に他者に伝達し、質疑応答にも対応することができる。		文化を活用したオリジナルのプロジェクトを立案し、プレゼンテーションおよびレポートそれぞれの形式で、他者に伝達することができる。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本文化を歴史学・芸術学・経済学・政策学など多角的な観点から学ぶ。現代日本、とりわけ地域における文化面の課題を自ら発見し、解決への提言を行なう。					
授業の進め方・方法	前半期間（科目目標①②に相当）は、主に講義とディスカッションを交えた形式をとる。後半期間（科目目標③に相当）は、近隣の施設見学と特別講義を組み入れ、現場の状況を学ぶ。ゴールにおいては、各自新たな【文化プロジェクト】の提案を行う。PPTを用いた口頭発表・学生間相互評価を受けてのレポート提出を課す。					
注意点	校外学習を組み込む。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・日本文化概論（１）		ガイダンス／日本文化の特質① 【Ⅲ-A:1-3】 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		2週	日本文化概論（２）		日本文化の特質① 【Ⅲ-A:1-3】 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		3週	日本文化概論（３）		日本文化の特質③ 【Ⅲ-A:1-3】 文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	
		4週	文化と経済（１）		経済活動における「文化」 【Ⅲ-A:1-1】 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	
		5週	文化と経済（２）		文化と産業をめぐる世界の現状 【Ⅲ-A:1-1】 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	
		6週	文化と経済（３）		沖縄における産業と文化 【Ⅲ-A:1-1】 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	
		7週	事例研究（１）		外部施設見学（１） 【Ⅲ-A:3-3】 相手の意見を尊重して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	
		8週	事例研究（２）		外部施設見学（２） 【Ⅲ-A:3-3】 相手の意見を尊重して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	
	2ndQ	9週	事例研究（３）		さまざまな文化施設 【Ⅲ-A:1-1】 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	

		10週	事例研究（４）	外部施設見学（３） 【Ⅲ-A:3-3】相手の意見を尊重して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。
		11週	文化政策（１）	文化政策概論 【Ⅲ-A:1-1】論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。
		12週	文化政策（２）	世界各地の文化政策 【Ⅲ-A:1-1】論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。
		13週	文化政策（３）	日本／沖縄の展望 【Ⅲ-A:1-1】論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。
		14週	発表（１）	文化プロジェクト発表／質疑応答／相互評価 【Ⅲ-A:3-1】情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。 【Ⅲ-A:3-2】他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。
		15週	発表（２）	同上
		16週		

評価割合

	最終レポート	ショートレポート	コメントシート	プレゼンテーション	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	10	30	0	0	100
基礎的能力	30	20	10	25	0	0	85
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	5	0	0	15

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	哲学・倫理学	
科目基礎情報							
科目番号	6004		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	「哲学の謎」野矢茂樹著（講談社現代新書）						
担当教員	青木 久美						
到達目標							
西洋における世界観の変遷、東洋思想と西洋思想の違いなどについて説明できるようになる。哲学や倫理学の諸問題、哲学の根本問題などについて考えられるようになる。哲学者の思想や諸宗教の思想に触れ、人間とはどのような存在であると考えられてきたかについて理解するとともに、自分が人としていかに生きるべきかなど、自分の生き方や自分の人生について考えることができるようになる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
西洋における世界観の変遷、東洋思想と西洋思想の違い、東洋思想と西洋思想の融合などについて理解し、説明することができるようになる。		西洋における世界観の変遷、東洋思想と西洋思想の違い、東洋思想と西洋思想の融合などについて理解し、自分の考えも交えながら、論理的に説明することができるようになる。		西洋における世界観の変遷、東洋思想と西洋思想の違い、東洋思想と西洋思想の融合などについて理解し、論理的に説明することができるようになる。		西洋における世界観の変遷、東洋思想と西洋思想の違い、東洋思想と西洋思想の融合などについて理解し、説明することができない。	
哲学や倫理学の諸問題について考えることができるようになる。		哲学や倫理学の諸問題について考え、自説を論理的に説明できるようになる。また他者の意見を尊重し、異なる意見によって自説を発展させることができるようになる。		哲学や倫理学の諸問題について考え、自説を述べるようになる。また他者の意見を尊重し、異なる意見によって自説を発展させることができるようになる。		哲学や倫理学の諸問題について考え、自説を述べることができない。また他者の意見を尊重することができない。	
自分の生き方や人生の意味について考えることができるようになる。		自分の生き方や人生の意味について深く理解することができるようになる。また他者の生き方や価値観を尊重することができるようになる。		自分の生き方や人生の意味について理解することができるようになる。また他者の生き方や価値観を尊重することができるようになる。		自分の生き方や人生の意味について考えることができない。また他者の生き方や価値観を尊重することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		ほぼ毎回、課題を出します。 学期の終わりには自分史を書いてシェアしていただきます。末試験は行いません。討論への参加、授業中の発表、課題によって評価します。					
授業の進め方・方法		哲学史の講義 哲学の根本問題についてのディスカッション などを交えながら、授業を行う。					
注意点		期末試験は行いません。討論への参加、授業中の発表、課題によって評価します。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション、哲学、		授業の進め方の説明、仏教の基礎について学ぶ		
		2週	哲学、倫理学		西洋哲学史（古代）について学ぶ		
		3週	哲学、倫理学		西洋哲学史（中世）		
		4週	哲学、倫理学		西洋の宗教史、西洋哲学史（近代の芽生え）		
		5週	哲学		哲学の根本問題（心とからだの関係）		
		6週	哲学		哲学の根本問題（意識と実在など）		
		7週	哲学		哲学の根本問題（私的体験など）		
		8週	哲学、倫理学		哲学の根本問題（自由と規範、言葉と経験など）		
	4thQ	9週	哲学、倫理学		西洋哲学史（近代）		
		10週	哲学、倫理学		西洋哲学史（近代）		
		11週	心理学		意識と無意識、心理学の4つの勢力		
		12週	哲学、倫理学		生きる意味の考察		
		13週	哲学、倫理学		西洋哲学史（現代）		
		14週	哲学		西洋哲学史（現代）、西洋の無と東洋の無		
		15週	心理学、哲学		自分史発表		
		16週					
評価割合							
	レポート		発表		ディスカッション		合計
総合評価割合	60		15		25		100
基礎的能力	55		10		20		85
専門的能力	5		5		5		15

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	応用解析学
科目基礎情報						
科目番号	6012		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：利用しない／教材：教員作成プリント，教員作成プレゼン資料など					
担当教員	安里 健太郎					
到達目標						
様々な分野で利用されている解析学（「複素関数論」，「ラプラス変換・逆変換」，「行列微分方程式」）について理解し，それらを実問題に 応用できる能力を修得することを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル（優）		標準的な到達レベル（良）		最低限必要な到達レベル（可）	
複素関数論を理解し，それを様々 な分野に応用することができる。	複素関数論を本質的に理解し，様 々な問題に対して適宜応用できる 。		複素関数論を本質的に理解し，例 示した問題に対して適宜応用でき る。		複素関数論の基礎を理解すること ができる。	
フーリエ解析およびラプラス変換 ・逆変換を理解し，それを様々な 分野に応用することができる。	フーリエ解析およびラプラス変換 ・逆変換を本質的に理解し，様々 な問題に対して適宜応用できる。		フーリエ解析およびラプラス変換 ・逆変換を本質的に理解し，例示 した問題に対して適宜応用できる 。		フーリエ解析およびラプラス変換 ・逆変換の基礎を理解することが できる。	
行列微分方程式を理解し，それを 様々な分野に応用することができる。	行列微分方程式を本質的に理解し ，様々な問題に対して適宜応用で きる。		行列微分方程式を本質的に理解し ，例示した問題に対して適宜応用 できる。		行列微分方程式の基礎を理解する ことができる。	
解析学を様々な分野に応用し，そ の結果を用いて深い洞察を行うこ とができる。	解析学を応用し，分野を横断した 諸問題を解決することができる。		解析学を応用し，自身の専門分野 の諸問題を解決することができる 。		自身の専門分野でどのように解析 学が応用されているか知っている 。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	様々な分野で利用されている解析学（複素関数論，フーリエ解析，ラプラス変換・逆変換，行列微分方程式）の応用に ついて学ぶ。					
授業の進め方・方法	10回は講義形式で行う。毎回教員作成プリントを配布し，教科書の補足資料となるようそれに講義内容を書き込んでい く。また，学習項目毎にレポートを課し，授業内容の理解を深める。残りの5回はPBL形式の課題に取り組む。					
注意点	「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」，「線形代数」，「微積分Ⅰ・Ⅱ」，「応用数学」を復習しておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス，解析学の応用に関するPBL（1）		本講義について概説する。解析学の応用に関する PBLを実施する。	
		2週	解析学の応用に関するPBL（2）		解析学の応用に関するPBLを実施する。	
		3週	複素関数論（1）		コーシーの積分定理について学習する。	
		4週	複素関数論（2）		ローラン級数展開について学習する。	
		5週	複素関数論（3）		留数の定理について学習する。	
		6週	フーリエ解析の復習		フーリエ解析について復習する。	
		7週	フーリエ解析の応用		フーリエ解析の応用について学習する。	
		8週	ラプラス変換・逆変換の復習		ラプラス変換・逆変換について復習する。	
	2ndQ	9週	ラプラス変換・逆変換の応用		ラプラス変換・逆変換の応用について学習する。	
		10週	行列微分方程式（1）		連立線形微分方程式を行列微分方程式で記述する手法 について学習する。	
		11週	行列微分方程式（2）		行列微分方程式の解法について学習する。	
		12週	行列微分方程式（3）		行列微分方程式の応用について学習する。	
		13週	解析学の応用に関するPBL（3）		解析学の応用に関するPBLを実施する。	
		14週	解析学の応用に関するPBL（4）		解析学の応用に関するPBLを実施する。	
		15週	本講義のまとめ		本講義のまとめを行う。	
		16週				
評価割合						
	レポート		PBL課題成果物		合計	
総合評価割合	60		40		100	
基礎的理解	30		0		30	
応用力（実践・専門・融合）	30		0		30	
社会性（プレゼン・コミュニケー ション・PBL）	0		30		30	
主体的・継続的学修意欲	0		10		10	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	スポーツ科学特論	
科目基礎情報							
科目番号	6032		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	各種論文や刊行物を参考に、担当教員がまとめ作成した資料およびレジュメを用いる。						
担当教員	和多野 大,島尻 真理子						
到達目標							
多岐に渡るスポーツ科学分野を横断的に触れる。スポーツ科学の専門分野の知識を修得し、本科で修得した内容のスポーツ科学への応用を感じるとともに、スポーツ科学の視点からスポーツの体系を理解することを目標とする。実践可能な修得内容は、実技を通して体感することで、より理解を深める。本講義の延長線上には、スポーツパフォーマンスの向上がある。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(S・A)		標準的な到達レベルの目安(B)		単位修得到達レベルの目安(C)	
多岐に渡るスポーツ科学の各分野における知識を得て、各視点からスポーツの体系を理解する。		総合的にスポーツの体系を理解した上で、専門分野からスポーツ理論を深め、パフォーマンス向上をうかがうことができる。		各トピック分野の内容を理解し、リンクされるスポーツの体系を総合的に理解できる。		各トピック分野を理解し、スポーツの体系をまとめることができる。	
本科で学習した内容がスポーツにどのように応用され活かされているかを理解する。		スポーツパフォーマンスに関する疑問点や改善点を、自らの知識を応用し解決することができる。		本科で学習した内容を踏まえ、スポーツパフォーマンスを説明することができる。		本科で修得した基礎的な学問が、スポーツの世界でどのように応用されているかを理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この講義では、スポーツ科学に関するさまざまな分野を紹介する。実際のスポーツ場面やスポーツパフォーマンスを想定・設定し、講義を展開することが多いため、たとえば本科において積極的にスポーツ系部活動を行ってきた学生や、部活動の指導に当たっている学生、スポーツやフィットネスに興味のある学生の受講をお勧めする。 【複数教員担当方式】						
授業の進め方・方法	・授業は2回の講義と1回の実技を1クールとし、全5クールで構成される。 ・各クール終了時に小テストおよび（または）任意のトピックに関するレポート作成を行う。						
注意点	・専攻科唯一の身体運動をともなう科目であり、実践的な実技を含むため、受講にはある程度の運動能力および運動意欲を有することが望ましい。 ・実技は体育館で行う。運動のできる服装と、体育館用のシューズを準備すること。酷暑が予想されるので、熱中症対策を心がけること。 ・シラバスに記された各内容は、受講生の人数および受講生のクラスター分布などによって、内容を変更することがある。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	スポーツ心理学特論（1）		スポーツメンタルトレーニングとモーターラーニングを知る		
		2週	スポーツ心理学特論（2）		脳科学と動機づけ理論を知る		
		3週	スポーツ実技（1）		小試験・スポーツ実践場面における理論の応用		
		4週	オリンピック論		オリンピックの歴史と意義に触れ、2020年東京オリンピックを考える		
		5週	パラリンピック論		障害者スポーツの発展と意義に触れ、2020年東京パラリンピックを考える		
		6週	スポーツ実技（2）		小試験・スポーツ実践場面における理論の応用		
		7週	アンチドーピング論		スポーツとドーピングの関わりについて・その危険性を知る		
		8週	スポーツバイオメカニクス特論		スポーツに関する物理系分野に触れる		
	2ndQ	9週	スポーツ実技（3）		小試験・スポーツ実践場面における理論の応用		
		10週	スポーツ生理学・栄養学特論		運動時の生理的・化学変化とスポーツに適した食事を考える		
		11週	フィットネススポーツ論		体作りとダイエットに焦点を当て、運動と食事を考える		
		12週	スポーツ実技（4）		小試験・スポーツ実践場面における理論の応用		
		13週	スポーツコーチング論		スポーツ指導とその方法・技術を知る		
		14週	スポーツゲーム論		スポーツのルールロジックからスキルと戦略戦術を考える		
		15週	スポーツ実技（5）		小試験・スポーツ実践場面における理論の応用		
		16週					
評価割合							
		授業内小試験		レポート		合計	
総合評価割合		80		20		100	
基礎的知識・技能		60		15		75	
応用的知識・技能		20		5		25	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	物理化学	
科目基礎情報							
科目番号	6014			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	アトキンス物理化学要論（第6版）（東京化学同人）						
担当教員	濱田 泰輔						
到達目標							
工学の基礎としての化学の基礎を理解する。特に物理化学を中心に身に付ける。 【Ⅱ-C】							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
物理化学の基礎としての熱力学を習得する。	熱力学の法則を理解し，説明でき，化学反応に適用し，計算できる。			熱力学の法則を理解し，説明でき，化学反応に適用できる。		熱力学の法則を理解し，説明できる。	
反応速度論を理解する。	化学反応の速度と速度式を理解し，説明し，物質の変化に適用できる。			化学反応の速度と速度式を理解し，説明できる。		化学反応の速度と速度式を理解できる。	
化学平衡と電気化学を理解する。	化学平衡と電気化学の基礎を理解し説明でき変化を式で示すことができる。			化学平衡と電気化学の基礎を理解し説明できる。		化学平衡と電気化学の基礎を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科の一般科目である化学で学んだ基礎知識を踏まえ，各専攻共通基礎として原子構造，化学結合をはじめ，電解質溶液の化学，電気化学，熱力学，化学反応速度の基礎を学ぶ。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	物理化学の基礎		状態，物理量，単位を理解する。		
		2週	化学熱力学(1)		気体の性質を理解する。		
		3週	化学熱力学(2)		気体の性質，実在気体を理解する。		
		4週	化学熱力学(3)		熱力学第一法則を理解する。		
		5週	化学熱力学(4)		熱力学第一法則を応用をすることが出来る。		
		6週	化学熱力学(5)		熱力学第二法則を理解する。		
		7週	化学平衡(1)		純物質の相平衡を理解する。		
		8週	化学平衡(2)		混合物の性質を理解する。		
	2ndQ	9週	理解の確認		中間確認（中テスト）と解説		
		10週	化学平衡(3)		混合物の性質，束一的性質を理解する。		
		11週	化学平衡(4)		化学平衡の原理を理解する。		
		12週	化学平衡(5)		化学平衡を応用することができる。		
		13週	化学平衡(6)		電気化学を理解する。		
		14週	化学反応速度(1)		反応速度を理解する。		
		15週	化学反応速度(2)		速度式を解釈することができる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	経営工学
科目基礎情報						
科目番号	6020		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教員作成の配布資料をテキストとする。					
担当教員	鳥羽 弘康					
到達目標						
次の4項目の習得を学習の目標とする。①工業経営における財務や、会計の基礎となる財務諸表と財務諸表分析を理解できる。②原価計算の基本手順、間接費の部門別配賦法や、製品別配分法を理解できる。③標準原価計算による原価管理を理解できる。④工業経営における需要供給連鎖（サプライチェーン）の管理の重要性和、サプライチェーンの基礎となる在庫管理、安全在庫配置問題の数理モデルを理解できる。 【Ⅳ】 工学基礎：工学リテラシーの1つとして上記知識を有し、自らの工学の分野に応用できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 工業経営における財務や会計の基礎となる財務諸表と財務諸表分析を理解できる。（機械：A-2,A-3,A-5,B-1,情報：A-2,A-3,B-1,B-2,B-3,メデ：A-1,A-2,B-1,B-2,生物：A-2,B-1,B-2,B-3)	左記項目に関する課題レポートの設問に対して、90%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、70%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、60%に到達しない。	
評価項目2 原価計算の基本手順、間接費の部門別配賦法や製品別配分法を理解できる。（機械：A-2,A-5,B-1,情報：A-2,A-3,B-1,B-2,B-3,メデ：A-1,A-2,B-1,B-2,生物：A-2,B-1,B-2,B-3)	左記項目に関する課題レポートの設問に対して、90%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、70%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、60%に到達しない。	
評価項目3 標準原価計算によるコストマネジメントを理解できる。（機械：A-2,A-5,B-1,情報：A-2,A-3,B-1,B-2,B-3,メデ：A-1,A-2,B-1,B-2,生物：A-2,B-1,B-2,B-3)	左記項目に関する課題レポートの設問に対して、90%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、70%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、60%に到達しない。	
評価項目4 工業経営におけるサプライチェーンマネジメントの重要性和、サプライチェーンの基礎となる在庫管理、安全在庫配置問題の数理モデルを理解できる。（機械：A-2,A-4,A-5,B-1,情報：A-2,A-3,B-1,B-2,B-3,メデ：A-1,A-2,B-1,生物：A-2,B-1,B-2)	左記項目に関する課題レポートの設問に対して、90%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、70%の得点をあげることができる。		左記項目に関する課題レポートの設問に対して、60%に到達しない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	授業では経営財務や工業簿記の基礎として財務諸表の読み方、原価計算、損益分岐点の求め方を学習する。また、工業経営の要となるサプライチェーンの基礎として基本的な在庫管理の数理モデルと安全在庫配置問題を学習する。授業は講義形式で進める。課題や演習では計算問題を出题し、講義内容に対する理解を深める。					
授業の進め方・方法	授業は講義形式で進める。定期試験や課題レポートから講義内容に対する理解度を評価する。課題レポートの得点を50%、期末試験を50%として成績を評価し、満点の60%以上の得点で単位を認定する。					
注意点	(JABEE関連共通記述) ・ この科目はJABEE対応科目である。その他必要事項は各コースで定める。 (各科目個別記述) ・ この科目の主たる関連科目は産業創造セミナー（本科3年）、生産工学（機械本科5年）、生産工学特論（機械専攻科1年）である。 ・ この科目の自学自習時間は42時間である。 (モデルコアカリキュラム) ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 。(学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分 専門科目③ 関連 工学及び周辺技術等に関する科目					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	企業経営における財務と会計	ガイダンス、企業活動における財務と会計		
		2週	企業会計と財務諸表	企業会計の役割と財務諸表の体系、貸借対照表		
		3週	連結財務諸表	損益計算書、包括利益計算書、キャッシュフロー計算書		
		4週	財務諸表と財務諸表分析	セグメント情報と、財務諸表分析における横断分析、時系列分析		
		5週	原価計算	原価計算の概要と基本手続き		
		6週	個別原価計算	原価の費目別計算と部門別計算		
		7週	総合原価計算	仕掛品原価と完成品原価の計算		
		8週	短期利益計画	損益分岐（C V P）分析		
	2ndQ	9週	予算管理と原価管理	予算管理と標準原価計算		
		10週	原価管理と原価企画	標準原価計算とV E		
		11週	S C M と在庫の確定的モデル	S C M の基礎と、在庫量の確定的モデル		

		12週	1 段階在庫の確率的モデル（１）	需要量の確率過程モデルと 1 段階在庫点の需要量モデル
		13週	1 段階在庫の確率的モデル（２）	1 段階在庫点からなるサプライチェーンの在庫量の確率的モデル
		14週	多段階在庫の確率的モデル（１）	多段階在庫点からなるサプライチェーンの在庫量の確率的モデル
		15週	多段階在庫の確率的モデル（２）	多段階在庫の在庫量と安全在庫水準
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	レポート	態度			合計
総合評価割合	50	0	50	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	30	0	0	0	60
専門的能力	20	0	20	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	6021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	学修単位: 12		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	教員作成資料、企業作成資料						
担当教員	兼城 千波						
到達目標							
①長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる ②高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる ③就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる			実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
高専で学んだことと働くことを関連付けて考え、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる。	実務経験を通し、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる			実務経験を通し、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、自らの役割(立場)について日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
就業経験および共同研究・受託研究を通して、研究開発の意義を学び、遂行することができる。	実務の内容と意義について理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる			実務の内容と意義について理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる		実務の内容と意義について理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる (指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 別紙、「長期インターンシップ実施要領」を必ず読み、行動すること。 ◎単位数 ・1ヵ月:4単位 ・2ヵ月:8単位 ・3ヵ月以上:12単位						
授業の進め方・方法	・実施要項を参照すること 【成績評価など】 研修(日報による評価40%)および研修先の評価(40%)、およびインターンシップ報告書の内容(20%)で評価する。 60%以上を合格とする。 履修に必要な書類:受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、日報、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料、履修願 ◎単位数 ・1ヵ月:4単位 ・2ヵ月:8単位 ・3ヵ月以上:12単位						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス		インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
		2週	インターンシップ先企業研究		企業研究、大学受け入れ先検討		

		3週	インターンシップ	約4週間の企業研修・大学での研究 ①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる ②企業における社会的責任を理解できる ③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-1 VII-A】企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる 【6-3-1 VII-A】キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢をとることができる。 【6-3-1 VII-A】企業あるいは技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	2ndQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	インターンシップ	同上			
後期	3rdQ	1週	インターンシップ	同上			
		2週	インターンシップ	同上			
		3週	インターンシップ	同上			
		4週	インターンシップ	同上			
		5週	インターンシップ	同上			
		6週	インターンシップ	同上			
		7週	インターンシップ	同上			
		8週	インターンシップ	同上			
	4thQ	9週	インターンシップ	同上			
		10週	インターンシップ	同上			
		11週	インターンシップ	同上			
		12週	インターンシップ	同上			
		13週	インターンシップ	同上			
		14週	インターンシップ	同上			
		15週	インターンシップ	同上			
		16週	成果報告会				

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	25	0	25
専門的能力	0	0	0	0	25	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	50	0	50

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	グローバルインターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	6022		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	教員作成資料、企業作成資料				
担当教員	兼城 千波				
到達目標					
① 海外での研修（企業・語学研修など）を通じて実践的な技術・語学力を身につける。 ② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 ③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。 【6-3-3 VII-C】 自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】 品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】 チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
海外での研修（企業・語学研修など）を通じて実践的な技術・語学力を身につける。	実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる		実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる		研修内容を理解し、日報や報告書に記述することができる （指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する）
異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。	実務経験を通し、その内容を理解し、企業活動の国内外に対する関連性・社会的責任を理解することができる		実務経験を通し、その内容を理解し、高専で学んだことと働くことを関連付けて考えることができる		研修内容を理解し、自らの役割（立場）について日報や報告書に記述することができる （指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する）
海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。 【機械システム】A-1、C-	実務の内容と意義ついて理解し、自ら考え、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる、		実務の内容と意義ついて理解し、関係者と相談しながら、実務を遂行することができる		実務の内容と意義ついて理解し、意義に基づいて実務経験をし、その内容を日報や報告書に記述することができる （指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する）
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	【概要】 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力（企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など）を実践レベルで身につける。 1. 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 2. 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 3. 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 4. 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 5. 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会で必要な要素・能力（企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など）を実践レベルで身につける。				
授業の進め方・方法	・派遣先の指示に従うこと ①研修中の日誌と報告書 50% ②研修先の評価レポート 20% ③研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% 履修に必要な書類：受入許可書および日程表（この提出をもって履修許可とする）、日報、派遣先からの評価書、報告書（様式任意）、報告書（学校様式2）、発表会資料、履修願				
注意点					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス	
		2週	インターンシップ先研究	企業研究、大学受け入れ先検討	
		3週	インターンシップ	約2－4週間の企業研修・大学での研究 ①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる ②企業における社会的責任を理解できる ③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-3 VII-C】 自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】 品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】 チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる	
		4週	インターンシップ	同上	
		5週	インターンシップ	同上	
		6週	インターンシップ	同上	
		7週	インターンシップ	同上	
		8週	インターンシップ	同上	

	2ndQ	9週	インターンシップ	同上
		10週	インターンシップ	同上
		11週	インターンシップ	同上
		12週	インターンシップ	同上
		13週	インターンシップ	同上
		14週	インターンシップ	同上
		15週	インターンシップ	同上
		16週	インターンシップ	同上
後期	3rdQ	1週	インターンシップ	同上
		2週	インターンシップ	同上
		3週	インターンシップ	同上
		4週	インターンシップ	同上
		5週	インターンシップ	同上
		6週	インターンシップ	同上
		7週	インターンシップ	同上
		8週	インターンシップ	同上
	4thQ	9週	インターンシップ	同上
		10週	インターンシップ	同上
		11週	インターンシップ	同上
		12週	インターンシップ	同上
		13週	インターンシップ	同上
		14週	インターンシップ	同上
		15週	インターンシップ	同上
		16週	報告会	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	25	0	25
専門的能力	0	0	0	0	25	0	25
分野横断的能力	0	0	0	0	50	0	50

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造システム工学セミナー 一般
科目基礎情報					
科目番号	6024		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	配布資料、PPT				
担当教員	津村 卓也, 谷藤 正一				
到達目標					
①広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベル（優）	標準的な到達レベル（良）	最低限必要な到達レベル（可）	
広い視野・多角的視点①広い視野・多角的視点から技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。		講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる	講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる	講義内容を適切に説明できる	
②各講義における目的を理解する。		講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる	講義の目的と自らの専門分野を関連性がある	講義の目的を示すことができる	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学内で開催される技術者講演会や高専機構・3機関連携で配信される技術者講演会を講義の対象とする。 したがって、内容は毎年変更される。 【連携教育科目】				
授業の進め方・方法	コマ15回以上の聴講およびレポート提出で採点対象となる。 履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。				
注意点	正しく説明できるかレポートで評価する。 【レポート内容必須事項】講演会日時、タイトル、講演者、講演内容の目的、講演内容、講義から得られた知見				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	企業技術者講演会1	学内メールなどで案内する	
		2週	企業技術者講演会2	学内およびネット配信の特別講義	
		3週	企業技術者講演会3	講義の案内は常時	
		4週	企業技術者講演会4	15回の聴講・レポート提出により評価する	
		5週	企業技術者講演会5		
		6週	など		
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					

	試験	小テスト	レポート	その他（演習課題・発表・実技・成果物等）	合計
総合評価割合	0	0	100	0	100
基礎的理解	0	0	50	0	50
応用力（実践・専門・融合）	0	0	50	0	50
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	0	0	0
主体的・継続的学修意欲	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	創造システム工学セミナー専門
科目基礎情報						
科目番号	6025		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	配布資料、PPT					
担当教員	津村 卓也, 谷藤 正一					
到達目標						
①専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する。 ②各講義における目的を理解する。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
専門分野に特化した技術に必要な要素を学習し、技術者にとって何が必要かを理解する		講義内容を理解し、その分野における問題点を適切にわかりやすく説明できる	講義内容を理解し、その分野における問題点を説明できる	講義内容を適切に説明できる		
各講義における目的を理解する		講義の目的と自らの専門分野を関連付けて示すことができる	講義の目的と自らの専門分野を関連性がわかる	講義の目的を示すことができる		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	協定校や連携企業で実施される専門分野を主とした講義・インターンシップなどで実習以外の講習・講義などの履修も可とする。単位数は、受講時間によって異なり、30時間：2単位、60時間：4単位、90時間：6単位、120時間：8単位を付与する。 【連携教育科目】					
授業の進め方・方法	受講先でレポートなどを提出し、受講証明を発行してもらう。					
注意点	履修希望者は、事前に担当教員に履修申請を行い、教務係で集中講義履修の手続きを行う。 【レポート内容必須事項】受講時間、受講内容、講義から得られた知見。受講先で提出したレポートや課題、受講先からの受講証明を添付すること。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義内容説明・ガイダンス 1時間：派遣先で指定する講義	講義内容を十分に理解し、簡潔にまとめることができる		
		2週	各派遣先での講義 30～120時間：派遣先での講義	講義内容を十分に理解し、報告書及びプレゼン資料を的確に作成することができる		
		3週	最終レポート 2時間	定められた書式で、的確にレポートをまとめることができる		
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
評価割合						

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	70	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	品質・安全マネジメント特論	
科目基礎情報							
科目番号	6027		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	教員自作プリント及びパワーポイント						
担当教員	眞喜志 隆,藤井 知,正木 忠勝,伊東 昌章,三枝 隆裕						
到達目標							
①工業製品の品質及び安全に関する基本的な考え方を学び、実践することができる。 ②製造における品質及び安全マネジメントの重要性、並びに製造責任や倫理観について理解し、実践することができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		日地洋最低限な到達レベルの目安(可)	
各種工業製品の品質管理に関する知識を身につけ、定量的に記述・解析することができる(機A-2、情A-2、メA-1,C-2、生A-2)		授業で学習した内容と関連付けながら、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について、それらの要点を説明できる。		教材・参考図書等に従い、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、ISO9001シリーズ、UL等の製品安全規格の概要について説明できる。	
製品安全に関する知識を身につけ、定量的に記述・解析することができる(機A-2,C-2、情A-2,C-2、メA-1,C-2、生A-2,C-1)		授業で学習した内容と関連付けながら、品質・安全管理に関する手法について、それらの要点を説明できる。		教材・参考図書等に従い、品質・安全管理に関する手法について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、品質・安全管理に関する手法について基本的な用語や考え方を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		この科目は、品質管理、安全管理について実務経験者がそれぞれの企業における経験を活かした講義を行うとともに、全15週のうちの4週の授業は、企業で品質管理等の業務に従事する者が担当する。 ①工業製品の品質及び安全に関する基本的な考え方を学ぶ。 ②製造における品質及び安全マネジメントの重要性、並びに製造責任や倫理観について理解する。 【オムニバス方式】 第1, 10, 14, 15回を眞喜志隆教授が担当。第2, 3, 8, 9回を外部講師が担当。第4, 11回を藤井知教授が担当。第5, 6回を伊東昌章教授が担当。第7, 12回を正木忠勝教授が担当。第13回を三枝隆裕教授が担当					
授業の進め方・方法		各コース分野に関わりの深い工業製品を題材に、各コースの担当教員がオムニバス形式で講義をおこなう。 大まかな講義の方針 ①各学科で3回=12回+航空で3回で行う。 ②各学科分には技術史を入れる。 ③各学科でグループワークを入れる。					
注意点		製品安全、ものづくり、食品、ソフトウェアの各分野について、品質・安全に関する課題レポートにて理解度を見る。 (各25%)					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・品質規格の基本(航)		ISO9001シリーズの基本的考え方と概要を説明できる		
		2週	製品安全規格(航)		UL等の製品安全規格とその概要を説明できる		
		3週	ものづくりの現場(航)		ものづくりの現場における品質・安全管理の概要を説明できる		
		4週	半導体・電子デバイス分野		半導体や電子デバイスのハードウェア設計を例に企業側の視点を理解できる		
		5週	食品分野①		食品偽装問題を例に、食品の品質や安全に対する企業側の視点を理解できる		
		6週	食品分野②		食品偽装問題を例に、食品の品質や安全に対する企業側の視点を理解できる		
		7週	ソフトウェア分野①		ソフトウェアに関連した、品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		8週	航空分野①		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
	4thQ	9週	航空分野②		航空分野からの品質・安全管理に対する企業側の視点を理解できる		
		10週	技術史(機械分野)		機械分野における技術史の概要を説明できる		
		11週	技術史(電子通信分野)		電子通信分野における技術史の概要を説明できる		
		12週	技術史(情報分野)		情報分野における技術史の概要を説明できる		
		13週	技術史(生物資源分野)		生物資源分野における技術史の概要を説明できる		
		14週	総合グループワーク①		各産業分野における諸問題のグループワーク①。課題の整理と問題点の抽出ができる		
		15週	総合グループワーク②		各産業分野における諸問題のグループワーク②。課題のまとめと発表ができる		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	15	25
専門的能力	0	10	0	0	0	15	25
分野横断的能力	0	10	0	0	0	40	50

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別研究Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	6202		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 8	
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教員が配布する資料				
担当教員	藤井 知,兼城 千波,高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔,宮城 桂,相川 洋平,亀濱 博紀,中平 勝也				

到達目標				
①研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること ②課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること ③これまで学んだ知識を総合し、問題解決ができること ④技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること ⑤研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること ⑥研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること 【VIII-A】 相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得てい 【VIII-B】 目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で 実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができ 【VIII-C】 ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用 できる。 【VIII-D】 現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を 理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具 体的な実行策を絞り込むことができる。 【VIII-E】 複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定 をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分 の意見や手順を論理的に展開できる。 【IX-F】 法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解でき る。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者 が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努 めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
研究テーマにおいて解決すべき課題を認識し、目的・目標を設定できること	研究背景に基づいて、課題を理解し、目的・目標を設定している	研究背景に基づいて目標設定ができている	各発表やレポートにおいて、目標を述べている	
課題解決のための研究計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること	自らの研究の位置づけを理解し、課題を取捨選択し、優先順位を付けて研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	研究課題に対して、自らの適性を考えて、研究計画を立て、それに基づいて研究を遂行できる	進捗状況を報告することができる	
これまで学んだ知識を総合し、問題解決ができること	実験・実習結果から問題点を見出し、問題解決ができる	実験・実習結果から問題点を見出し、問題解決に繋げることができる	図表を駆使して、自らの成果を説明できる	
技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、倫理観をもって研究に取り組めること	社会的に影響のある研究内容については、指導教員などに相談することができる	他者の成果や文献を引用し、それを適切に示すことができる	他者の成果や文献を引用することができる 社会的に影響のある内容の分別をつけることができる	
研究に関係する他者と協調して研究遂行するためのコミュニケーションができること	研究に対する質問やコメントなどを真摯に受け止め、議論することができる	研究に対する質問やコメントなどに回答することができる	研究に対する質問やコメントなどに回答することができる	
研究内容を論文として論理的で簡潔な科学技術文章としてまとめるとともに、他者に明確に説明できるプレゼンテーション能力を身につけること	研究内容を論理的に最終論文としてまとめることができる また、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションすることができる	研究成果を論文としてまとめることができる	中間発表や最終発表だけでなく、学会などで発表することができる	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	特別研究では、設定したテーマに関して、これまで講義や実験などで学んできた学修科目との関連性を考えながら、問題点や課題点を抽出し、課題の設定、実験計画の策定、実験実施、結果分析の一連のプロセスを自主的、計画的に遂行できる能力を育成する。 課題テーマに関する報告書・論文の作成と発表を通じて論理的で簡潔な科学技術文書の作成技術、明瞭的確な表現によるプレゼンテーションの能力を身につける。 研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 【複数教員担当方式】
授業の進め方・方法	研究テーマ詳細については、特別研究指導教員のテーマ内容および授業計画（配布資料）を参照すること。 成績の評価は以下の方法で実施する。 中間発表(10%)、最終発表(20%)、最終論文(50%)、研究・履修計画書(10%)、進捗状況報告(10%)
注意点	- この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学学科科目関連図一覧表を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) - 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) 【自学自習に対する対応】 - 論文・資料調査 各2時間×30週 - 研究計画書と実験ノートの作成 各1時間×30週 - 実験や実習（予備実験・追加実験など） 適宜(150時間以上) 【その他】 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) - 科目区分 専門科目 B 電気電子工学に関する実験・実習科目

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験	テーマ設定・課題抽出・研究計画の作成
		2週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による

		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		8週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
	2ndQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		16週	中間発表	
後期	3rdQ	1週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		2週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		3週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		4週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		5週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		6週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		7週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		8週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
	4thQ	9週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		10週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		11週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		12週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		13週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		14週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		15週	調査研究・課題・研究計画・実験	各テーマの内容・進捗状況による
		16週	最終発表	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	0	0	0	0	40	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	専攻科実験
科目基礎情報						
科目番号	6203		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教員自作のプリント, パワーポイントの資料					
担当教員	兼城 千波,高良 秀彦,神里 志穂子,金城 伊智子,谷藤 正一,山田 親稔					
到達目標						
①ハードウェアに関する計測技術, 設計手法, データ処理, 解析手法を理解する。 ②情報処理技術に関する計測技術, 設計手法を理解する。 【VI-C-1】電気電子工学実験・実習系領域では、電気電子に関する各種の計測、試験法等についての技術を習得するとともに、専門科目について学習した内容を実験を通して理解することを目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベル (優)		標準的な到達レベル (良)		最低限必要な到達レベル (可)	
ハードウェアに関する計測技術, 設計手法, データ処理, 解析手法を理解する。	周囲の状況を把握して自ら考えながらハードウェアの回路設計・製作に関する実験ができる。		説明に基づいてハードウェアの回路設計・製作の実験をできる。		指示されたことに対してハードウェアの回路設計・製作の実験をできる。	
情報処理技術に関する計測技術, 設計手法を理解する。	周囲の状況を把握して自ら考えながら情報処理技術に関するデータ処理、ネットワーク、シーケンスに関する実験ができる。		説明に基づいて情報処理技術に関するデータ処理、ネットワーク、シーケンスの実験をできる。		指示されたことに対して情報処理技術に関するデータ処理、ネットワーク、シーケンスの実験をできる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目では、集積化デバイス、高周波回路、光回路などにおける回路設計技術、デバイス評価技術、光・無線伝送、制御技術、通信・情報処理技術における信号処理技術、システム構築に関わる実験を行う。 【オムニバス方式】 前期の第1～4回を神里志穂子准教授が担当、第5～8回を金城伊智子准教授が担当、第9～15回を山田親稔准教授が担当、後期の第1～6回を兼城千波教授が担当、第7～12回を高良秀彦教授が担当、第13～15回を谷藤正一教授が担当する。					
授業の進め方・方法	実験形式は、オムニバス形式で行う。					
注意点	(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目は、情報通信システム工学科科目関連図を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分：【B群(実験・実習科目)】 電気電子工学に関する実験・実習科目					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	専攻科実験・データマイニング実験のガイダンス		専攻科実験の目的, 評価方法などの説明を行う データマイニング手法を習得する実験のガイダンス 統計解析ツールのインストールと設定	
		2週	データマイニングに関する基本演習 (クラスタ分析)		クラスタ分析に関して理解し, データの解析を行う	
		3週	データマイニングに関する基本演習 (因子分析)		因子分析に関して理解し, データの解析を行う	
		4週	データマイニングに関する基本演習 (主成分分析)		主成分分析に関して理解し, データの解析を行う	
		5週	インテリジェントウェブに関する基本演習 (検索)		検索結果の改善手法について理解し, データの分析を行う	
		6週	インテリジェントウェブに関する基本演習 (レコメンド1)		レコメンド手法について理解し, データ間の類似度計算手法を用いたデータの分析を行う	
		7週	インテリジェントウェブに関する基本演習 (レコメンド2)		類似度計算とクラスタ分析を組み合わせたデータの分析を行う	
		8週	インテリジェントウェブに関する基本演習 (分類)		分類手法について理解し, データの分析を行う	
	2ndQ	9週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		10週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		11週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		12週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		13週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		14週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習	
		15週	ネットワーク設計演習		Ciscoルータを用いた実機によるネットワーク設計演習 および実験レポート作成	
		16週	期末試験は実施しない			
後期	3rdQ	1週	電子デバイス製作・測定 (概要説明)		(兼城)集積回路製作技術の説明・製作上の注意事項・使用機器の説明	
		2週	電子デバイス製作・測定 2 (プロセス技術)		(兼城)ダイオード・抵抗・MOSトランジスタの製作	
		3週	電子デバイス製作・測定 3 (計測・評価技術)		(兼城)電子デバイスの電気特性測定	
		4週	弾性波デバイス実験 (概要説明)		(兼城)SAWフィルタに関する説明・プロセス手順・評価説明	

		5週	弾性波デバイス実験 (概要説明)	(兼城)洗浄工程・フォトリソ工程・蒸着
		6週	弾性波デバイス実験 (概要説明)	(兼城)ネットワークアナライザを用いた反射特性・伝搬特性評価
		7週	RF回路シミュレータ演習	AWR回路シミュレータの基礎トレーニング
		8週	高周波増幅回路の設計	1段HEMT増幅回路の設計
	4thQ	9週	高周波増幅回路の試作	表面実装素子を用いてPCB上に増幅回路を製作
		10週	高周波増幅回路の試作	1～3GHz帯における利得，雑音指数を測定
		11週	シーケンス制御実験	実機によるシーケンス制御実験
		12週	シーケンス制御実験	実機によるシーケンス制御実験および実験レポート作成
		13週	電波の発生および伝搬実験（概要，企画）	実験装置および電波暗室の概要説明、実験方法，手順の企画
		14週	電波の発生および伝搬実験（送受信機操作	マイクロ波送受信装置の操作実習
		15週	電波の発生および伝搬実験（評価，報告）	マイクロ波を用いた無線通信に関する討議および実験レポート作成
		16週	期末試験は実施しない	

評価割合					
	定期試験	小テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	100	0	100
基礎的理解	0	0	30	0	30
応用力（実践・専門・融合）	0	0	40	0	40
社会性（プレゼン・コミュニケーション・PBL）	0	0	10	0	10
主体的・継続的学修意欲	0	0	20	0	20

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	生体情報工学
科目基礎情報						
科目番号	6206		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教員自作のプリント, パワーポイントの資料					
担当教員	神里 志穂子					
到達目標						
"生体情報処理のメカニズム及び生体信号の計測方法・信号処理, 情報処理に関して理解する。 【V-D-8】 ①生体情報処理のメカニズムに関して理解する 【V-D-8】 ②生体信号計測・信号処理, 情報処理に関する手法を理解する"						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)	
生体情報処理のメカニズムに関して理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら生体情報処理に関する説明ができる		教科書や資料に従って生体情報処理の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら生体情報処理の説明ができる	
生体信号計測・信号処理, 情報処理に関する手法を理解する。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら生体計測の方法やデータの処理に関して説明ができる		教科書や資料に従って生体計測の方法やデータの処理の要点を説明できる		教科書や資料を見ながら生体計測の方法やデータの処理の説明ができる	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	講義では, 生体システムの計測・処理・制御に関して, 生体の持つ仕組みを「情報」の観点から理解し, 工学的手法によるアプローチを通して, 基本的な概念について理解を深める。					
授業の進め方・方法	生体システムの基本的な概念を学び, 実際に生体データの計測を行う。					
注意点						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 生体情報工学の役割や概念	授業の進め方や課題の提出方法を説明する 生体情報工学の役割や概念を学習する		
		2週	医療機器と生体計測技術	医療機器や生体計測技術の基礎について学習する		
		3週	センシング技術	生体センシング技術の基礎について学習する		
		4週	モデル化	モデル化とシミュレーションについて学習する		
		5週	活動電位のセンシング	細胞膜の電位変化と活動電位について学習する		
		6週	視覚系の情報処理	視覚の特性について学習する		
		7週	視覚系の情報処理	視覚の心理現象, 画像処理フィルタについて学習する		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	筋の収縮と神経機構	筋の収縮と力学的特性について学習する		
		10週	運動の機構と神経制御	運動と制御について学習する		
		11週	脳波計測と処理技術	脳波計測と処理技術について学習する		
		12週	生体計測への応用	視野, 脳波, 動作計測方法及び機器の取扱を学ぶ		
		13週	生体計測実習	グループに分かれてテーマを決め生体計測を行う		
		14週	生体計測実習	生体計測の結果を解析グループで考察を行う		
		15週	生体計測実習	計測した内容に関して発表を行う		
		16週				
評価割合						
	定期試験	小テスト	レポート	その他	合計	
総合評価割合	40	0	60	0	100	
基礎的能力	30	0	5	0	35	
応用力	10	0	20	0	30	
社会性	0	0	20	0	20	
主体的・継続的学修意欲	0	0	15	0	15	

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	数値解析論	
科目基礎情報							
科目番号	6207		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	「ANSICによる数値計算法入門」(森北出版)						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
工学的な問題解決のためのコンピュータによる数値解析の基礎を習得する。 数値解析の基本的な用語や考え方を理解できる。 アルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。 数値解析に関する基本演習および自発的・継続的な学習を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限必要な到達レベルの目安(可)		
数値解析の基本的な用語や考え方を理解できる。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値解析と実問題に対応付けながら説明ができる。		教科書や資料に従って数値解析の概念の要点を説明できる。		教科書や資料を見ながら数値解析の概念の説明ができる。		
アルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。	これまでに学習した他の科目と関連付けながらアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。		教科書や資料に従ってアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。		教科書や資料を見ながらアルゴリズムの確立と実際の計算作業ができる。		
数値解析に関する基本演習および自発的・継続的な学習を身につける。	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値解析に必要となる計算ができる。		教科書や資料に従って数値解析に必要となる計算ができる。		教科書や資料を見ながら数値解析に必要となる計算ができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	工学的な問題解決のためのコンピュータによる数値解析の基礎を習得する。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式で、章毎にレポートを課す。 演習はすべて解くこと。						
注意点	・シミュレーションを履修していることが望ましい						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス、数値解析の基礎シラバスを用いて、授業の進め方を説明する。		数値解析の基礎を理解し、説明できる。		
		2週	2分法、ニュートン法の基礎		方程式の意味を理解し、説明できる。		
		3週	連立一次方程式 (1 回目)		連立1次方程式の行列表示、上三角型連立1次方程式について理解し、説明できる。		
		4週	連立一次方程式 (2回目)		ガウスの消去法、ガウス・ジョルダン法と逆行列について理解し、説明できる。		
		5週	連立一次方程式 (3回目)		連立1次方程式の解の有無および形、行列のLU分解と連立1次方程式を理解し、説明できる。		
		6週	補間法 (1 回目)		ラグランジュの補間法、差商とニュートンの差商公式を理解し説明できる		
		7週	補間法 (2回目)		差分と差分表、ニュートンの前進補間公式を理解し説明できる。		
		8週	曲線のあてはめ (1 回目)		多項式近似と最小2乗法を理解し、説明できる。		
	2ndQ	9週	曲線のあてはめ (2 回目)		スプライン補間を理解し、説明できる。		
		10週	補間法と曲線のあてはめ		補間とあてはめを基礎として、時系列解析の応用を理解し、説明できる。		
		11週	数値積分 (1 回目)		台形公式を理解し、説明できる		
		12週	数値積分 (2 回目)		シンプソンの公式を理解し、説明できる		
		13週	微分方程式		ルンゲ・クッタ法を理解し、説明できる		
		14週	偏微分方程式		偏微分方程式とその分類、偏動関数の差分による近似を理解し、説明できる。		
		15週	まとめ		数値解析について俯瞰し、説明できる。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	10	0	0	0	0	40
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	アルゴリズム理論	
科目基礎情報							
科目番号	6209		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	「Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」(ソフトバンクパブリッシング)。「アルゴリズムとデータ構造」(SoftBank Creative) (他にも参考図書を探す場合のキーワード: アルゴリズム、データ構造)						
担当教員	金城 伊智子						
到達目標							
①アルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法を習得する。(A-2、A-3、B-1) ②数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。(A-2、A-3、B-1) 【V-D】ソフトウェアの分野では、計算量等の指標を使ってプログラムを抽象化して理解・分析できるための基礎を獲得している。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
アルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法を習得する。(A-2、A-3、B-1)	これまでに学習した他の科目と関連付けながらアルゴリズムおよびデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		教科書や資料に従ってアルゴリズムおよびデータy y構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		教科書や資料を見ながらアルゴリズムとデータ構造とそれらに対する操作に関して理解を深め、アルゴリズムの設計技法についての説明ができる。		
数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。(A-2、A-3、B-1)	これまでに学習した他の科目と関連付けながら数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		教科書や資料に従って数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		教科書や資料を見ながら数値計算アルゴリズムを説明でき、離散数学などのアルゴリズム設計の際に概念を利用することができる。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義では、プログラム設計を行う際に必要となるデータ構造とアルゴリズムの概念を理解する。また、基本的なデータ構造の実装方法を修得し、各種探索手法、ソート法など各種アルゴリズムの特徴を理解するとともに実装により理解を深める。						
授業の進め方・方法	定期試験(中間・期末)(80%) + レポート・輪講資料(20%) 学年末評価は中間評価と期末評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、最適化問題		1年間の授業の進め方や課題の提出方法を説明する。最適化問題の役割や概念を理解する。		
		2週	データ構造		リスト、スタック、キューについて理解する。		
		3週	グラフ、木		グラフとその表現、木について理解する。		
		4週	ヒープ、集合		ヒープ、集合の表現と演算について理解する。		
		5週	再帰法		再帰法再帰方程式の解法について理解する。		
		6週	分割統治法		分割統治法について理解する。		
		7週	動的計画法		動的計画法について理解する。		
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	関係、線形順序、決定木		関係、線形順序、決定木について理解する。		
		10週	マージソート、ヒープソート		マージソート、ヒープソートについて理解する。		
		11週	クイックソート、バケットソート		クイックソート、バケットソートについて理解する。		
		12週	選択問題		選択問題について理解する。		
		13週	2分探索法と2分探索木		2分探索法と2分探索木、AVL木について理解する。		
		14週	グラフの探索		グラフ探索の手法について理解する。		
		15週	いろいろなアルゴリズム		バックトラック法について理解する。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20

分野横断的能力	0	0	0	0	0	10	10
---------	---	---	---	---	---	----	----

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	弾性波工学	
科目基礎情報							
科目番号	6214		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	Surface Acoustic Wave Devices and Thier Signal Processing Applications(Academic Press Inc, Colin Campbell)/弾性表面波工学（電子情報通信学会編、柴山乾夫監修）/弾性表面波デバイスシミュレーション技術入門（リアライズ社、橋本研也）						
担当教員	藤井 知						
到達目標							
①弾性波のメカニズム・基礎を理解する。(A-4) ②弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。(A-4)							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
弾性波のメカニズム・基礎を理解する。		・弾性体の運動方程式を使って、材料の応力を算出することができる ・弾性波の励振原理に基づいて、電極形状やデバイス構造を設計できる		・ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語を説明できる ・弾性波（弾性表面波）の励振（中心周波数、周波数特性、BW、減衰・挿入損）を定量的に説明できる		・ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語が理解できる ・弾性波（弾性表面波）の励振を定性的に説明できる	
弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する		・弾性波応用デバイスの学習したすべてのデバイスについてデバイス構造、電気特性を説明することができる ・デバイス特性を見て、どんな機能があるかを説明できる		・弾性波応用デバイスの一例をデバイス構造、電気特性とともに説明することができる ・測定する特性について、何がキーパラメータとなるか？わかっている		・弾性波を使った応用デバイスにどんなものがあるかを説明できる ・一般的な弾性波デバイスにはどんな測定方法が用いられているか、理解できる	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		・弾性波の原理、構造、デバイスについて学ぶ。					
授業の進め方・方法		定期試験（期末）（40%）(A-4)+レポート（中間）（40%）・輪講資料（20%）(A-4) 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。 ・授業の一部を輪講形式で行い、作成資料を評価対象とする。 ・電磁気学・マイクロ波工学を履修していること。					
注意点		・この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学学科科目関連図一覧表を参照のこと。 （モデルコアカリキュラム） ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 （航空技術者プログラム） 【自学自習の対応】 ・レポート（その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。） 各8時間×2回 ・輪講の準備（資料の情報収集とPPTの作成） 各9時間×2回 ・毎週の講義の復習 各2時間×13回 【その他】 ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 科目区分 専門科目 A 電子工学に関する科目					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	弾性波工学概論 歴史的事項、応用と進展		歴史的事項、応用と進展 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		2週	弾性波の基礎(1)		ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		3週	弾性波の基礎(2)		ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		4週	弾性波の励振(1)		直接励振、間接励振 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		5週	弾性表面波の伝搬(1)		ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解		
		6週	弾性表面波の伝搬(2)		ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		7週	弾性表面波の伝搬(3)		ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数 【V-F-3】弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること		
		8週	前期中間レポート				

	2ndQ	9週	弾性波の励振(1)	直接励振、間接励振 【V-F-3】 弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		10週	弾性波の励振(2)	直接励振、間接励振 【V-F-3】 弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		11週	弾性波の励振(3)	直接励振、間接励振 【V-F-3】 弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		12週	弾性波の励振(4)	直接励振、間接励振 【V-F-3】 弾性力学分野では、2次元弾性体の応力とひずみを理論的に理解できること
		13週	SAWフィルタ設計(1)	SAW電極設計
		14週	SAWフィルタ設計(2)	SAW電極設計
		15週	まとめ	弾性波のまとめ（輪講）
		16週	期末試験	

評価割合

	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	40	0	0	0	100
基礎的能力	35	10	35	0	0	0	80
専門的能力	5	10	5	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	電子機器工学	
科目基礎情報							
科目番号	6215		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	配布資料、 P P T						
担当教員	兼城 千波,谷藤 正一						
到達目標							
①ディスプレイ、HDDなどコンピュータ周辺機器やパワーエレクトロニクスで使用される重要な回路やデバイスの動作原理を理解する。 ②各機器の製造された技術的背景について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
ディスプレイ、HDDなどコンピュータ周辺機器やパワーエレクトロニクスで使用される重要な回路やデバイスの動作原理を理解する。	・資料を見ず、重要な回路やデバイスの動作原理について自分の言葉で説明できる		・資料を見ず、重要な回路やデバイスの動作原理について説明できる		・資料を見ながら、重要な回路やデバイスの動作原理について説明できる		
各機器の製造された技術的背景について理解する。	・資料を見ず、各機器の製造された技術的背景について自分の言葉で説明できる		・資料を見ず、各機器の製造された技術的背景について説明できる		・各機器の製造された技術的背景について説明できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・本講義では、前半にコンピュータ周辺機器であるディスプレイやハードディスクなどの記憶装置などの弱電機器について授業を行い、後半はパワーエレクトロニクスを中心にインバーター回路やパワーMOSなどの半導体素子について授業を行う。 【オムニバス方式】 第1～8回を兼城千波教授が担当、第9～16回を谷藤正一教授が担当する。						
授業の進め方・方法	・履修に際しては、電子回路および半導体工学などの科目を履修していることが望ましい。 評価：定期試験（中間・期末）（80%）＋レポート・輪講資料（20%） 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
注意点	【自学自習に対する対応】 レポート（その週の講義内容に沿った内容についてレポート・輪講資料作成を課す。） 各7.5時間×2回 毎週の講義の復習 各3時間×15回 【その他】 ・この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。 （モデルコアカリキュラム） ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 。（航空技術者プログラム） ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 （学位審査基準の要件による分類・適用） 科目区分 専門科目 A 電子工学に関する科目						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ディスプレイ1【航】		(兼城)液晶ディスプレイの構造・原理について理解する【航】		
		2週	ディスプレイ2【航】		(兼城)プラズマディスプレイの構造・原理について理解する【航】		
		3週	電池【航】		(兼城)リチウム電池の構造・原理について理解する【航】		
		4週	パワー半導体素子1【航】		(兼城)パワーMOSの構造について理解する【航】		
		5週	パワー半導体素子2【航】		(兼城)IGBTの構造について理解する【航】		
		6週	A/D変換器【航】		(兼城)A/D変換器の構造について理解する【航】		
		7週	D/A変換器【航】		(兼城)D/A変換器の構造について理解する【航】		
		8週	中間試験		これまでの内容について試験を行う(兼城)		
	4thQ	9週	電力調整回路1【航】		{(谷藤)サイリスタの構造・原理について理解する【航】		
		10週	電力調整回路2【航】		(谷藤)直流チョップ回路について理解する【航】		
		11週	電力調整回路3【航】		(谷藤)インバータ回路について理解する【航】		
		12週	ストレージ1		(谷藤)ハードディスクの構造について【航】		
		13週	ストレージ2		(谷藤)半導体メモリについて理解する【航】		
		14週	インバータ回路の応用 1【航】		(谷藤)インバータ回路の応用について理解する【航】		
		15週	インバータ回路の応用2【航】		(谷藤)インバータ回路の応用について理解する【航】		
		16週	インバータ回路の応用2【航】		これまでの内容について口頭発表により試験を行う(谷藤)		
評価割合							
	試験	その他（レポート・輪講など）	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	10	0	0	0	0	30

分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10
---------	---	----	---	---	---	---	----

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	知能システム特論	
科目基礎情報							
科目番号	6217			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教員自作パワーポイント資料						
担当教員	神里 志穂子						
到達目標							
知覚情報処理と知識表現、機械学習の基本的な考え方と応用に関して修得する。 【V-D-8】①知覚情報処理と知識表現の基本的な用語や考え方を説明できる。(A-3) 【V-D-8】②機械学習のメカニズムおよび応用事例を説明できる。(A-3) 【V-D-8】③インタフェースとコミュニケーションの基本を説明できる。(A-3)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)	
知覚情報処理と知識表現の基本的な用語や考え方を説明できる。	授業で学習した内容と関連付けながら、知覚情報処理と知識表現関連技術について、応用可能性や将来展望等を含め、それらの要点を説明できる。			教材・参考図書等に従い、知覚情報処理と知識表現について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、知覚情報処理と知識表現についてその概念と基本的な用語や考え方を説明できる。	
機械学習のメカニズムおよび応用事例を説明できる。	授業で学習した内容と関連付けながら、機械学習のメカニズムについて、応用可能性や将来展望等を含めそれらの要点を説明できる。			教材・参考図書等に従い、機械学習について、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、機械学習についてその概念と基本的な用語や考え方を説明できる。	
インタフェースとコミュニケーションの基本を説明できる。	授業で学習した内容と関連付けながら、インタフェースとコミュニケーション関連技術について、応用可能性や将来展望等を含めそれらの要点を説明できる。			教材・参考図書等に従い、インタフェースとコミュニケーションについて、その要点を多角的に説明できる。		講義資料・参考図書等を参照しながら、インタフェースとコミュニケーションについてその概念と基本的な用語や考え方を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	パワーポイントによる講義を中心に、人工知能の概念を復習し、知覚情報処理・知識表現の概念との基礎理論を理解する。						
授業の進め方・方法	概念とプログラムを合わせて理解を深める。今後の人工知能の有り方に関して、考えをまとめる。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	講義ガイダンス、認知科学と人工知能の基礎の理解	ガイダンス・認知科学と人工知能の基礎について学習する			
		2週	知覚情報処理の基礎の理解	知覚情報処理の基礎について学習する			
		3週	自然言語処理の理解	自然言語処理の現状と応用事例について学習する			
		4週	機械学習の理解	機械学習と応用事例について学習する			
		5週	インタフェースの基礎の理解	インタフェースの基礎について学習する			
		6週	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの基礎について学習する			
		7週	論理的推論の理解	論理的推論について学習する			
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	知識表現の理解	知識表現の基礎について学習する			
		10週	論理的プログラミングの理解	論理的プログラミングについて学習する			
		11週	論理的推論の理解	論理的推論について学習する			
		12週	意味ネットワークの理解	意味ネットワークについて学習する			
		13週	知的画像処理の理解	知的画像処理について学習する			
		14週	視覚情報処理の理解	視覚情報処理の基礎について学習する			
		15週	視覚情報処理の理解	視覚情報処理の応用事例について学習する			
		16週	期末試験				
評価割合							
	定期試験	小テスト	レポート	その他	合計		
総合評価割合	80	0	10	10	100		
基礎的能力	30	0	5	0	35		
応用力	10	0	5	0	15		
社会性	20	0	0	10	30		
主体的・継続的学修意欲	20	0	0	0	20		

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	航空工学III	
科目基礎情報							
科目番号	8003			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	眞喜志 治						
到達目標							
サイクルをT-s線図で表現できる。 サイクルの意味を理解し、熱機関の熱効率を計算できる。 ジェットエンジンの空力設計に必要な空気力学の知識を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
ガスタービンの基本サイクルと効率改善方法を説明できる。	ガスタービンの基本サイクル、再生サイクル、再熱サイクルを説明し、各サイクル性能を計算でき、エネルギーの有効利用方法を説明できる。			ガスタービンの基本サイクル、再生サイクル、再熱サイクルを説明でき、各サイクル性能を計算できる。		ガスタービンの基本サイクルを説明し、サイクル性能を計算できる。	
ジェットエンジンの作動原理や基本性能を説明できる。	様々な資料や情報を活用して、ジェットエンジンの作動原理を説明でき、性能計算を行える。			講義資料と課題調査等で得た知識を活用して、ジェットエンジンの作動原理を説明でき、性能計算を行える。		講義資料を用いて、ジェットエンジンの作動原理を説明でき、性能計算を行える。	
ジェットエンジンの歴史や現状を説明できる。	様々な資料や情報を活用して、ジェットエンジンの歴史や現状を説明でき、性能計算を行える。			講義資料と課題調査等で得た知識を活用して、ジェットエンジンの歴史や現状を説明できる。		講義資料を用いて、ジェットエンジンの歴史や現状を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	ガスタービン及びジェットエンジンの構造、基本サイクル等について学ぶ。さらに、ジェットエンジンの歴史や分類方法等について学ぶ。 本講義は、機械システム工学科5年生開講の「エネルギー変換工学」及び専攻科1年生開講の「熱機関工学」で学んだ知識を基礎としているため、受講前に十分な復習を求めるものとする。						
授業の進め方・方法	ガスタービン及びジェットエンジンの構造、基本サイクル等について学ぶ。さらに、ジェットエンジンの歴史や分類方法等について学ぶ。						
注意点	本講義は、機械システム工学科5年生開講の「エネルギー変換工学」及び専攻科1年生開講の「熱機関工学」で学んだ知識を基礎としているため、受講前に十分な復習を求めるものとする。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガスタービン(1) 流れと熱の基礎について学ぶ		ガスタービン内の流れと熱の基礎を説明できる。		
		2週	ガスタービン(2) サイクルと性能について学ぶ		ガスタービンサイクルと性能について説明できる。		
		3週	ガスタービン(3) 軸流圧縮機について学ぶ		軸流圧縮機の特徴を説明できる。		
		4週	ガスタービン(4) 軸流タービンについて学ぶ		軸流タービンの特徴を説明できる。		
		5週	ガスタービン(5) 遠心圧縮機とラジアルタービンについて学ぶ		遠心圧縮機とラジアルタービンの特徴を説明できる。		
		6週	ガスタービン(6) 燃焼器、再熱器及び再生器について学ぶ		燃焼器、再熱器、再生器の特徴を説明できる。		
		7週	ジェットエンジン(1) ジェットエンジンの作動原理について学ぶ		ジェットエンジンの作動原理を説明できる。		
		8週	ジェットエンジン(2) ジェットエンジン要素の性能について学ぶ		ジェットエンジン要素の性能について説明できる。		
	2ndQ	9週	ジェットエンジン(3) ジェットエンジンの推力について学ぶ		ジェットエンジンの推力の求め方を説明できる。		
		10週	ジェットエンジン(4) ジェットエンジンの基本性能について学ぶ		ジェットエンジンの基本性能を説明できる。		
		11週	ジェットエンジン要素の空力設計(1) 空気取り入れ口の空気力学について学ぶ		空気取り入れ口の空気力学を理解し、設計について説明できる。		
		12週	ジェットエンジン要素の空力設計(2) 軸流圧縮機の空気力学について学ぶ		軸流圧縮機の空気力学を理解し、設計について説明できる。		
		13週	ジェットエンジン要素の空力設計(3) 遠心圧縮機の空気力学について学ぶ		遠心圧縮機の空気力学を理解し、設計について説明できる。		
		14週	ジェットエンジン要素の空力設計(4) タービンの空気力学について学ぶ		タービンの空気力学を理解し、設計について説明できる。		
		15週	ジェットエンジンの開発の歴史や種類について学ぶ		ジェットエンジン開発の歴史や種類を時系列で説明できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70

專門的能力	20	0	0	0	0	5	25
分野横断的能力	0	0	0	0	0	5	5

沖縄工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	航空工学IV	
科目基礎情報							
科目番号	8004			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子通信システム工学コース			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	眞喜志 治						
到達目標							
現象を本質的に系統立てて、理論的に取り扱うための基本的な知識を習得する。 流体の圧縮性、音波と音速について説明できる。 一次元流れの基礎式を導出できる。 衝撃波の形成過程を説明し、関係式を導出できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
圧縮性流体の特徴を理解し、数式を用いて理想流体及び粘性流体との違いを説明できる。	圧縮性流体の特徴を様々な数式や熱力学的性質等と関連させて説明できる。			圧縮性流体の特徴を教科書に記載されている数式と参考文献等より調べた数式等を用いて説明できる。		圧縮性流体の特徴を教科書に記載されている数式を用いて説明できる。	
授業中に示された基礎式や理論式の導出等を自発的に行う能力を身につける。	式の導出過程を理解し、複数の式を組み合わせた活用ができる。			式変形を行い、状況に応じた式活用ができる。		計算に必要な式を利用することができる。	
与えられた様々な条件から問題解決に必要な条件を見出し、正確な解答および的確な説明を行える能力を身につける。	与えられている情報をすべて理解し、問題に応じて、必要な値及び式を選択でき、的確に答えを導くことができる。			与えられた情報の中から、問題解決に必要な情報を抽出し、答えを導くことができる。		与えられた情報を利用して、答えを導くことができる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	高速で流れる気体の運動や圧力波の伝播などを扱う場合に考慮される、気体の圧縮性について学ぶ。 本講義は、機械システム工学科本科4年生の「流体工学」及び専攻科1年生の「流体工学特論」で学んだ知識を基礎としているので、よく復習して受講することが求められる。						
授業の進め方・方法	速で流れる気体の運動や圧力波の伝播などを扱う場合に考慮される、気体の圧縮性について学ぶ。						
注意点	本講義は、機械システム工学科本科4年生の「流体工学」及び専攻科1年生の「流体工学特論」で学んだ知識を基礎としているので、よく復習して受講することが求められる。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	流体の圧縮性 体積弾性率、圧縮率、体膨張率について学ぶ			流体の圧縮性について説明できる。	
		2週	完全気体 完全気体の状態変化について学ぶ			完全気体の状態変化について説明できる。	
		3週	音波と音速 流体中を伝播する波について学ぶ			流体中を伝播する波について説明できる。	
		4週	圧縮流れの分類と特徴(1) 亜音速流れと超音速流れについて学ぶ			亜音速流れ、超音速流れについて説明できる。	
		5週	圧縮流れの分類と特徴(2) 衝撃波の形成及びマッハ数による流れの分類について学ぶ			衝撃波、流れの分類について説明できる。	
		6週	一次元流れの基礎式(1) 連続の式、運動方程式及びベルヌーイの式について学ぶ			連続の式、運動方程式等を導出できる。	
		7週	一次元流れの基礎式(2) 運動量の式及びエネルギーの式について学ぶ			運動量の式、エネルギー式を導出できる。	
		8週	中間試験			第1週から第7週の授業内容について理解力を示せる。	
	4thQ	9週	一次元定常等エントロピー流れ(1) 礎式及び関係式について学ぶ			基礎式等を導出できる。	
		10週	一次元定常等エントロピー流れ(2) 質量流量の式及び圧縮流れの速度測定について学ぶ			質量流量の式を導出でき、圧縮流れの速度測定を説明できる。	
		11週	ノズル内の一次元定常流れ(1) 等エントロピー流れ及びノズル効率について学ぶ			等エントロピー流れ、ノズル効率について説明できる。	
		12週	ノズル内の一次元定常流れ(2) ラバールノズルの流れについて学ぶ			ラバールノズルの流れについて説明できる。	
		13週	衝撃波(1) 衝撃波の形成及び垂直衝撃波の基礎式について学ぶ			衝撃波の形成について説明でき、垂直衝撃波の基礎式を導出できる。	
		14週	衝撃波(2) ランキン・ユゴニオの式及び垂直衝撃波の関係式について学ぶ			ランキン・ユゴニオの式、垂直衝撃波の関係式を導出できる。	
		15週	Fannoの流れとRayleighの流れ			Fannoの流れとRayleighの流れについて説明できる。	
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70

專門的能力	20	0	0	0	0	5	25
分野横断的能力	0	0	0	0	0	5	5